

KIORITZ

取扱説明書

共立高所作業機
KCG3501H

⚠ 注意

本機は個人農家向けの農用高所作業機です。
高所作業車とは異なりますので高所における工事、点検、補修等の作業には使用しないでください。

⚠ 警告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

このたびは、共立農用高所作業機をお買い上げいただきありがとうございます。
しました。

この取扱説明書は、本機の取り扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。

本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接して、いつもお手元に置いて必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書および安全銘板を、紛失または損傷された場合は、速やかに当社の特約店または販売店にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「安全に作業するために」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただいた特約店・販売店・JAへご相談ください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

説明記号の見方



その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

取扱いの注意

誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

参考

作業能率を良くしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

本製品の使用 目的について

本機は、個人向けの農用高所作業機です。高所作業車とは異なりますので高所における工事、点検、補修等の作業には使用しないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は、保証書をご覧ください。）

本文の概要

1章

安全な作業をするために必ずお守りください

2章

保証とサービスについて

3章

各部のなまえ

4章

各操作部のはたらき

5章

運転前・作業前点検のしかた

6章

運転と作業のしかた

7章

作業後の手入れについて

8章

点検・整備のしかた

9章

不調診断のしかた

10章

その他

- 安全に関する重要な内容を、代表的な作業項目について説明しています。個別の作業については、各項目を見てください。また、各安全銘板の内容と貼付位置を示しています。
- 保証書とアフターサービスについて説明しています。
- 本文中、よく使う部品の名称を紹介しています。
- 本文中、よく使う操作レバーのはたらきについて説明しています。
- 本機の点検箇所と、作業に適した服装などを説明しています。
- 本機の運転・操作のしかた、およびトラックでの運搬のしかたを説明しています。
- 機械を最良の状態にしておくために、毎作業後および長期間使用しないときの、手入れのしかたを説明しています。
- 長期間故障がなく、本機を安全に使用するための点検・整備のしかたを説明しています。
- 正常に作動しないときの点検・処置のしかたを説明しています。修理に出す前に確認してください。
- 用語解説、仕様・標準付属品および主要消耗部品について説明しています。

1章

2章

3章

4章

5章

6章

7章

8章

9章

10章

目次

はじめに	1
お願い	1
おことわり	1
説明記号の見方(危険・警告・注意・取扱いの注意・参考)	2
本製品の使用目的について	2
本文の概要	3
1章 安全な作業をするために必ずお守りください	6
1. 作業者の体調・服装について	6
2. 使用する機械について	7
3. 運転前・作業点検をするとき	8
4. 運転・移動をするとき	10
5. 運搬するとき	13
6. 作業をするとき	14
7. 作業後の手入れ・格納をするとき	16
8. 点検・整備をするとき	17
9. 安全銘板の貼り付け位置	18
2章 保証とサービスについて	21
保証書は大切に保管してください	21
アフターサービスをお受けになるときは	21
3章 各部のなまえ	22
4章 各操作部のはたらき	23
5章 運転前・作業前点検のしかた	25
1. 作業者の体調・服装について	25
2. 作業前の点検と準備	26
3. 燃料の点検・給油のしかた	26
6章 運転と作業のしかた	27
1. エンジンの始動のしかた	27
2. エンジンの停止のしかた	29
3. 発進・旋回・停止のしかた	30
4. 坂道での運転のしかた	32
5. 樹園への出入りのしかた	32
6. トラックでの運搬のしかた	33

- 7. 旋回ロックピンのセット・解除のしかた 34
- 8. 各部の操作のしかた 35

7章 作業後の手入れについて 38

- 1. 作業後の手入れ 38
- 2. 各部注油・グリースアップのしかた 39
- 3. 長期間使用しない場合の手入れ 40

8章 点検・整備のしかた 41

- 1. 定期点検・整備の時期について 41
- 2. 点検一覧表 42
- 3. 各部オイルの点検・交換のしかた 42
- 4. エアクリーナの掃除・交換のしかた 44
- 5. 燃料コシ器の掃除のしかた 44
- 6. 燃料パイプ・電気・配線の点検のしかた 45
- 7. 点火プラグの点検のしかた 45
- 8. ヒューズの点検・交換のしかた 46
- 9. バッテリーの整備のしかた 46
- 10. サクションストレーナの洗浄のしかた 47
- 11. フィルタエレメント(戻しフィルタ)の交換のしかた 48
- 12. クローラの張り調節のしかた 48
- 13. 走行コントロールレバーの点検のしかた 49
- 14. 増締めをるところ 49
- 15. 作業台が傾いた場合の水平調整のしかた 50

9章 不調診断のしかた 52

10章 その他 54

- 1. 用語解説 54
- 2. 仕様 55
- 3. 主要消耗部品 56
- 4. 油圧系統図 57
- 5. 電気回路図 58

- ここに記載されている注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
- ここに記載されている注意項目を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損をまねくおそれがあります。ここに記載されている注意事項は、農用高所作業機全般についての内容です。ご購入された製品によっては、該当しない内容も一部記載していますがご了承ください。

1. 作業者の体調・服装について



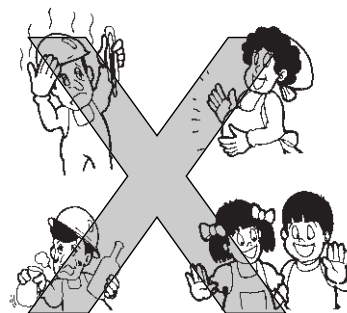
警告

こんなときは、運転しない！

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- 酒を飲んだとき。 ●妊娠しているとき。
- 18才未満の人。 ●運転が未熟な人。

【守らないと】

思わぬ事故の原因になります。

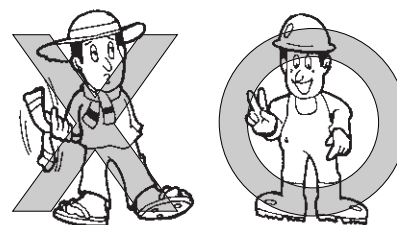


安全靴・作業帽・ヘルメット・つなぎなどの
作業に適した服装をする

はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれ
があります。



2010903

長時間作業禁止

適当に休みをとって作業してください。

【守らないと】

集中力が低下し、思わぬ事故の原因になります。

2. 使用する機械について



警告

機械の改造禁止

純正部品以外の部品を取り付けしないでください。

改造をしないでください。

【守らないと】

機械の故障、事故・ケガをまねくおそれがあります。

機械を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

運転者以外の乗車禁止

本機は乗員定員1名です。人を乗せて運転をしないでください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となります。



注意

必ず定期点検・整備を受ける

1年ごとに定期点検・整備を受け、各部の保守を行ってください。特に、燃料パイプは2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検してください。

【守らないと】

整備不良による事故、機械の故障を引き起こすおそれがあります。

点検、整備を行う

使用前と後には必ず機械の点検、整備をしてください。特に、ブーム伸縮レバー・操作ペダル・走行コントロールレバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検、整備をしてください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障を生じるおそれがあります。

農用の高所作業以外は使用禁止

本機は、個人向けの農用高所作業機です。高所作業車とは異なりますので高所における工事、点検、補修等の作業には使用しないでください。また公道での走行はしないでください。

【守らないと】

思わぬ事故をまねくおそれがあります。

3. 運転前・作業点検をするとき

危険

注油・給油はエンジンが冷えてから
エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油をしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災を起こすおそれがあります。

指定の燃料を使用

取扱説明書で指定している燃料を使用してください。

【守らないと】

性能が落ちたり火災事故を起こすおそれがあります。

燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は、絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火し、火災を起こすおそれがあります。

燃料を補給した後は、燃料キャップを締め、こぼれた燃料は拭き取る
燃料キャップがゆるんでいると、燃料がこぼれ出ることがありますので、確実に締め込んで
ください。また、こぼれた燃料は、きれいに拭き取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。

燃料もれに注意

燃料パイプが破損していると、燃料もれを起こしますので必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。

バッテリー点検時は火気厳禁

バッテリーの点検・充電時は火気厳禁です。

【守らないと】

バッテリーに引火し、爆発してヤケドなどを引き起こすおそれがあります。

**警告**

点検、整備は平坦な安定した場所で

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、クローラには歯止めをしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

ブームを上げての点検・整備は、ブームロックを必ず装着

【守らないと】

ブームと本機の間にはさまれて、ケガをするおそれがあります。

排ガスには十分に注意

閉め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。

エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気してください。

【守らないと】

排ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

クローラは必ず点検

クローラの張りを調整してください。

クローラに亀裂がないか確認してください。

【守らないと】

クローラが外れたり、切れたりして思わぬ事故をまねくおそれがあります。

マフラー・エンジン回りのゴミは取り除く

マフラーやエンジン周辺部にワラクス・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検し、付着していれば取り除いてください。

【守らないと】

火災事故やオーバーヒートを引き起こすことがあります。

走行コントロールレバーは必ず点検する

走行コントロールレバーが「N」位置に戻るか点検してください。

【守らないと】

事故を引き起こすおそれがあります。

電気部品・コードを必ず確認

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして火災事故を起こすおそれがあります。

注意

点検、整備中はエンジン停止

点検、整備、修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きや巻き込まれてケガをするおそれがあります。

カバー類は必ず取り付ける

点検、整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

4. 運転・移動をするとき

危険

過積載禁止

最大作業能力（作業台に乗る作業者の全体重を含む）以内で運転してください。特に、坂道では荷物を軽くしてください。

【守らないと】

転倒などにより機械の破損をまねき、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

作業台からの乗り出しや、荷物のはみ出し禁止

【守らないと】

転倒・転落事故のおそれがあります。

後進するときは低速で

後進で移動するときは低速で行ってください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故をまねくおそれがあります。

移動時は路肩に注意

坂道・路肩・障害物乗り越え・溝のある場所・軟弱地などでは、十分注意してスピードを落としてください。

【守らないと】

転落・転倒などの事故によりケガをするおそれがあります。

降りて移動する場合は低速で

降りて移動する場合は、転倒しないように足元に十分注意し、周囲に障害物がないか確認して、障害物と機械との間にはさまれないようにしてください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故をまねくおそれがあります。

⚠ 危険

ブームを上げた状態で走行禁止

移動時はブームを下げて、走行してください。

【守らないと】

バランスが崩れやすくなり、そのうえ障害物の確認ができません。

死亡事故や重大な傷害、物的損害をまねくおそれがあります。

⚠ 警告

積載物を高く積まない

積み荷が高くなると機械のバランスが崩れやすく、また障害物の確認ができませんので積載物を高く積まないでください。

【守らないと】

機械の破損をまねき、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

急坂道・アユミ板の上では低速走行

急坂道やアユミ板の上では、「前進」「後進」とも低速で走行してください。

【守らないと】

転倒・転落による事故やケガをまねくおそれがあります。

操作ペダルを踏んだまま、キースイッチを「入」位置にしない

キースイッチを「入」位置にしたときに、作業台が急に旋回を始めます。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となります。

周囲に合図してゆっくりと発進

エンジン始動時は、必ず周囲の人に合図してからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となることがあります。

溝・あぜを渡るときはアユミ板を使用

溝・あぜを渡るとき、段差を越えるとき、軟弱な場所を通るときは、必ずアユミ板を使用してください。

アユミ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】

スリップや転倒による事故をまねくおそれがあります。

わき見運転や手放し運転禁止

【守らないと】

傷害事故の原因となります。

警告

急坂道では方向転換禁止

急な下り坂では、方向転換をしないでください。

【守らないと】

思わぬ方向に機械が旋回して、転落などの事故をまねくおそれがあります。

人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となることがあります。

燃えているゴミの上やその近くは走行禁止

【守らないと】

燃料やオイルなどに引火し、火災になるおそれがあります。

注意

マフラーの高温に注意

運転中およびエンジン停止直後の、マフラー・エンジンは高温ですので触れないでください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。

コンテナ台には乗らない

コンテナ台に乗って運転・走行をしたり、人を乗せたりしないでください。

【守らないと】

転落などにより、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときは、十分スピードを落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では、十分速度を落としてください。

【守らないと】

転倒・転落事故や、機械の破損を起こすおそれがあります。

機械から離れるときは平坦地に置きエンジン停止

機械から離れるときには、平坦で安定した場所に置きエンジンを停止してください。

やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず歯止めをしてください。

【守らないと】

機械が動きだし、事故の原因となります。

5. 運搬するとき



警告

強度・長さ・幅の十分あるアユミ板を使用

積み込み・積降ろしをするときは、平坦で交通の安全な場所に、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け歯止めをしてください。

使用するアユミ板は、強度・長さ・幅が十分あり、スリップしないものを選んでください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

《アユミ板の基準》

- 強度...本機の重量に十分耐えるもの
- 長さ...トラックの荷台高さの4倍以上
- 幅.....クローラ幅にあったもの
- 表面...スリップしないもの

トラックには必ず歯止めを

積み込むトラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、サイドブレーキを掛けて歯止めをしておいてください。

【守らないと】

トラックが動いて転落事故などをまねくおそれがあります。

アユミ板は、確実に掛ける

アユミ板をそれぞれのクローラに合わせ、フックをトラックの荷台へ確実に掛けてください。

【守らないと】

アユミ板がはずれて本機が転落・転倒し、死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

積み込み・積降ろし作業は誘導者をつけて

トラックなどからの積み込み・積降ろし作業は、誘導者を付けてください。

誘導者は機械から離れて誘導作業を行ってください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

ブームを下げてアユミ板を使用

アユミ板を使用して積み、降ろしするときは、本機のブームを下げ、荷物を載せないでください。

【守らないと】

バランスが崩れ、転落などの事故の原因になります。



警告

登るときは後進、降りるときは前進で
積み込みの場合、歩行運転で「後進」、降ろしの場合「前進」の低速で行ってください。乗
用運転はしないでください。

【守らないと】

バランスを崩し、転落などの事故を引き起こすおそれがあります。

アユミ板の上では方向転換厳禁

アユミ板の上で進路変更をすることがないように前もって進路を定めて最低速度で行って
ください。進路をかえるための、走行コントロールレバー操作は絶対にしないでください。方
向を直す場合は、平坦な場所に戻ってから行ってください。

【守らないと】

転落などの事故の原因となります。

ロープでトラックに確実に固定

トラックに載せて移動するときは、本機のエンジンを停止させ、旋回ロックピンをセット
し、燃料コックを「閉」にしてください。さらに動かないように歯止めをし、強度の十分あ
るロープでトラックに本機を確実に固定してください。

【守らないと】

トラックから本機が転落したりして、事故をまねくおそれがあります。

急ハンドルや急ブレーキは避ける

運搬中は、急ハンドルや急ブレーキは避けてください。

【守らないと】

転落などの事故の原因となります。

6. 作業をするとき



危険

高所作業時は機体の周囲、頭上の安全を確認

【守らないと】

ハサマレ事故のおそれがあります。

電線近くの作業禁止

本機は絶縁されていません。

【守らないと】

感電事故のおそれがあります。

⚠ 危険**夜間作業禁止**

本機を使用して夜間の作業はしないでください。

【守らないと】

視界がきかず、バランスを崩し、転落・転倒などの事故によりケガをするおそれがあります。

悪天候、悪路、軟弱地の使用禁止

強風の時や凸凹の多い場所、地面が軟らかい場所では使用しないでください。

【守らないと】

転倒・転落のおそれがあります。

安全帯はガードレールに装着する

安全帯（オプション）を使用する場合はガードレールに確実にセットしてください。

【守らないと】

転落のおそれがあります。

作業台上のハシゴ、補助台使用禁止

【守らないと】

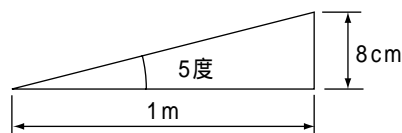
転倒・転落のおそれがあります。

傾斜地5度以上では使用禁止

傾斜地での使用限度角度は5度までにしてください。

【守らないと】

転倒し重大な傷害をまねくおそれがあります。

**農用高所作業機のブームの下は立入厳禁**

機械の下にもぐったり、足を踏み入れたりしないでください。

【守らないと】

何らかの原因で機械が動いたときに、傷害事故を起こすおそれがあります。

作業中は、開閉ゲートをロックする

【守らないと】

転落により傷害をまねくおそれがあります。



警告

周囲の障害物に注意

ブームは上下左右の動きをします。周囲の障害物に気をつけてください。

【守らないと】

挟まれたり、障害物に接触して事故をまねくおそれがあります。

くわえタバコでの作業厳禁

【守らないと】

火災など、思わぬ事故の原因となります。

7. 作業後の手入れ・格納をするとき



危険

遊動輪の草・泥などは取り除く

遊動輪に草や泥が付着すると、クローラが外れたり切断するおそれがあります。作業前後に取り除いてください。

【守らないと】

転倒・転落のおそれがあります。

機械を保管する場合

機械を保管する場合は、平坦で安定した場所に置き、エンジンを停止してキーを抜き取ってください。

【守らないと】

機械が動きだし、事故を引き起こすおそれがあります。

シートは機械が十分冷えてから

エンジンを停止した後、エンジン・マフラーなどの高温部が冷えてからシートをかけてください。近くに燃えやすい物がないか、また燃えやすい物があれば取り除いてください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすことがあります。

長期格納時はバッテリーとキーを外す

長期間使用しないで格納する場合はバッテリーを取り外してください。また、キーを抜き取り、キャップをして保管してください。バッテリーを取り外すときは⊖側を先に外します。

【守らないと】

事故を引き起こすおそれがあります。

長期格納時は燃料を抜き取る

長期間使用しないで格納する場合は、燃料タンク・気化器内の燃料を抜き取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。

8. 点検・整備をするとき

危険

必ず規定のバッテリーを使用
バッテリーを交換するときは、必ず規定のバッテリーを使用してください。
【守らないと】
火災の原因となることがあります。

バッテリー液は体につけない
バッテリー液を身体や服につけないようにしてください。
万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。
【守らないと】
ヤケドをしたり、服が破れるおそれがあります。

バッテリーの取り付け・取り外しは正しい手順で
バッテリーを取り付けるときは⊕側を先に取り付け、取り外すときは⊖側から取り外します。
【守らないと】
ショートして、ヤケドや火災事故を引き起こすおそれがあります。

機械から離れるときはブームを下げる
機械から離れるときは、ブームをいっぱいに下げた後から離れてください。
【守らないと】
何らかの原因でブームが下降し、傷害事故を起こすことがあります。

注意

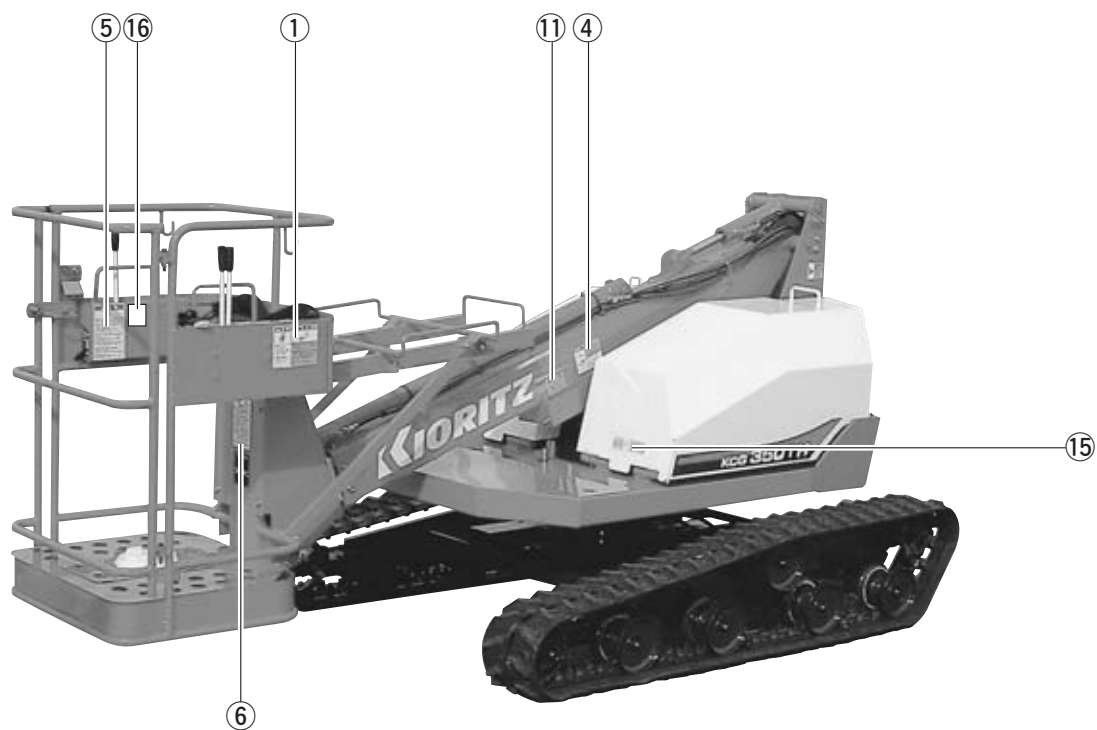
点検、整備は高温部分が十分冷えてから
マフラーやエンジンなどの高温部分が、十分に冷えてから点検、整備をしてください。
【守らないと】
燃料などに引火して、火災を起こしたり、ヤケドをするおそれがあります。

部品を交換したり、巻き付いた草などを取り除くときはエンジン停止
【守らないと】
機械に巻き込まれて重傷を負うおそれがあります。

9. 安全銘板の貼り付け位置

安全に作業していただくために安全銘板の貼付位置を示したものです。

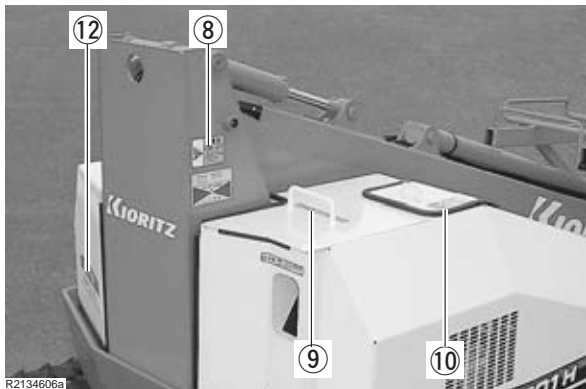
安全銘板は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。



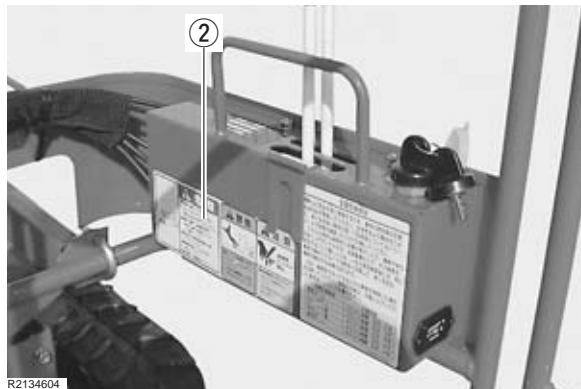
R2134601a



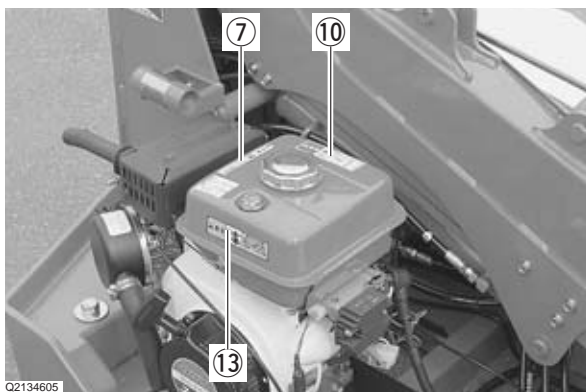
R2134602a



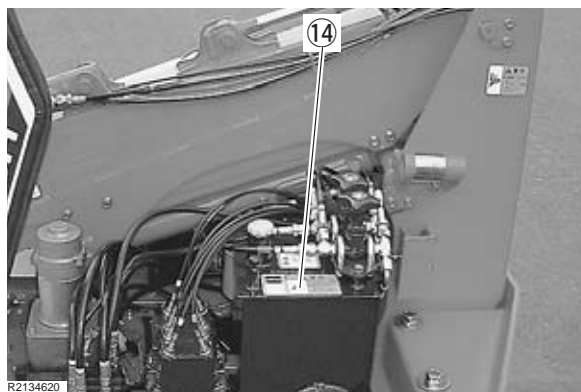
R2134606a



R2134604



Q2134605



R2134620

① 1N3600-03441 銘板 (高所A)

<p>危険</p>	<p>警告</p>
<p>●後進するときは、スピードをおとし、足元に注意して、障害物がないか確認してください。 障害物と本機の間にはさまれてケガをするおそれがあります。</p>	<p>●転落・転倒などの事故によりケガをするおそれがありますので、下記の項目をかならずまもってください。 ●本機輸送時の積み降ろしは、平坦で、堅固な場所に、強度・長さ・幅の余裕のあるアユミ板を使用し低速で行ってください。 ●アユミ板上での方向転換はしないでください。 ●本機はトラックに確実に固定してください。</p>

③ 1N3600-03460 銘板 (高所C)

<p>警告</p>	<p>警告</p>
<p>●作業に直した服装をしてください。回転部などに巻き込まれケガをするおそれがあります。 ●本機の改造はしないでください。機能と性能がそなわれケガをするおそれがあります。</p>	<p>排気ガスに注意</p> <p>室内および換気の悪い場所での運転は排気ガスが充満し、人体に有害です。</p>

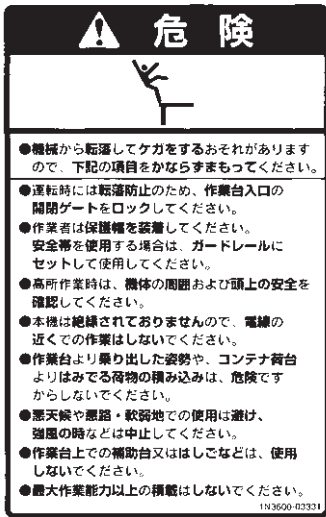
② 1N3600-03451 銘板 (高所B)

<p>危険</p>	<p>警告</p>	<p>注意</p>
<p>●本機が転倒してケガをするおそれがありますので、下記の項目をかならずまもってください。 ●坂道、路肩、障害物乗り越え、溝のある場所、軟弱地などでは十分注意してください。 ●傾斜地での使用限界角度は5度までに行ってください。 ●移動走行時はブームを下げて運転してください。 ●不整地での急発進はさけてください。</p>	<p>●エンジン始動時は走行レバーにふれないでください。 本機が急発進しケガをするおそれがあります。</p>	<p>点検時エンジン停止</p> <p>●点検整備をするときは、エンジンを停止してください。 ケガをするおそれがあります。</p>

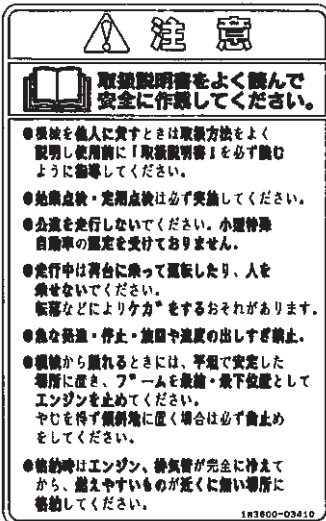
④ 1N3600-03261 警告 (ブームロック)

<p>警告</p>
<p>●ブームを上げて点検・整備を行う場合は、かならずブームロックをしてください。ブームと本機との間にはさまれてケガをするおそれがあります。 ●ブームロックは、左側ボンネット内側に取付けてあります。 ●ロックは矢印方向より取付けてください。 ●ピンは確実に挿入してください。</p>

⑤1N3600-03331 危険（高所作業時）



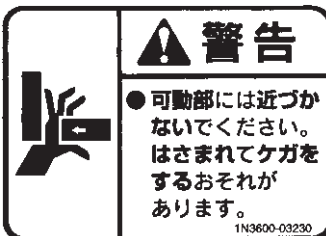
⑥1N3600-03410 注意（取説 他）



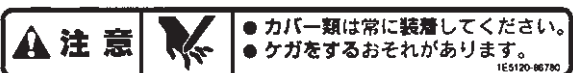
⑦1E5120-86720 注意（マフラー - ）



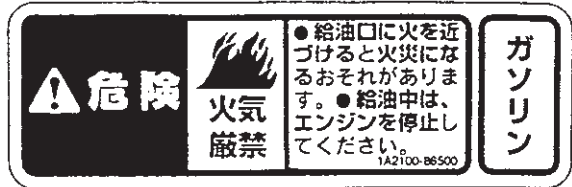
⑧ 1N3600-03230 警告（可動部）



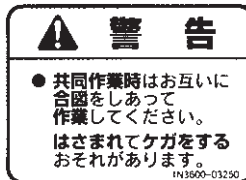
⑨ 1E5120-86780 注意（カバー）



⑩1A2100-86500 危険（火気厳禁）



⑪1N3600-03250 警告（共同作業時）



⑫172164-03560 危険（旋回内立入禁止）



⑬1E5120-86600 警告（排ガス）



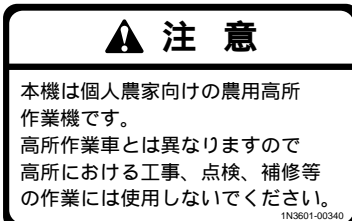
⑭1N3600-03490 銘板（高所D）



⑮1N3600-03270 警告（乗車禁止）



⑯1N3601-03340 注意（高所作業）



保証書は大切に保管してください

「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときに、52ページの「不調診断」にしたがって点検・処置をしても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にしてお買い上げいただいた販売店、農協、お近くの当社支店までご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況は？
（どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか？
（約 時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えてください。



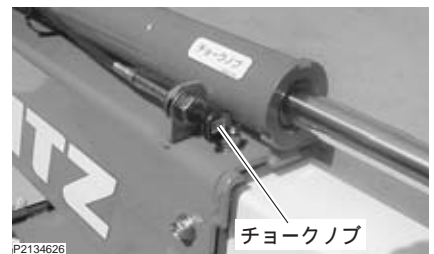
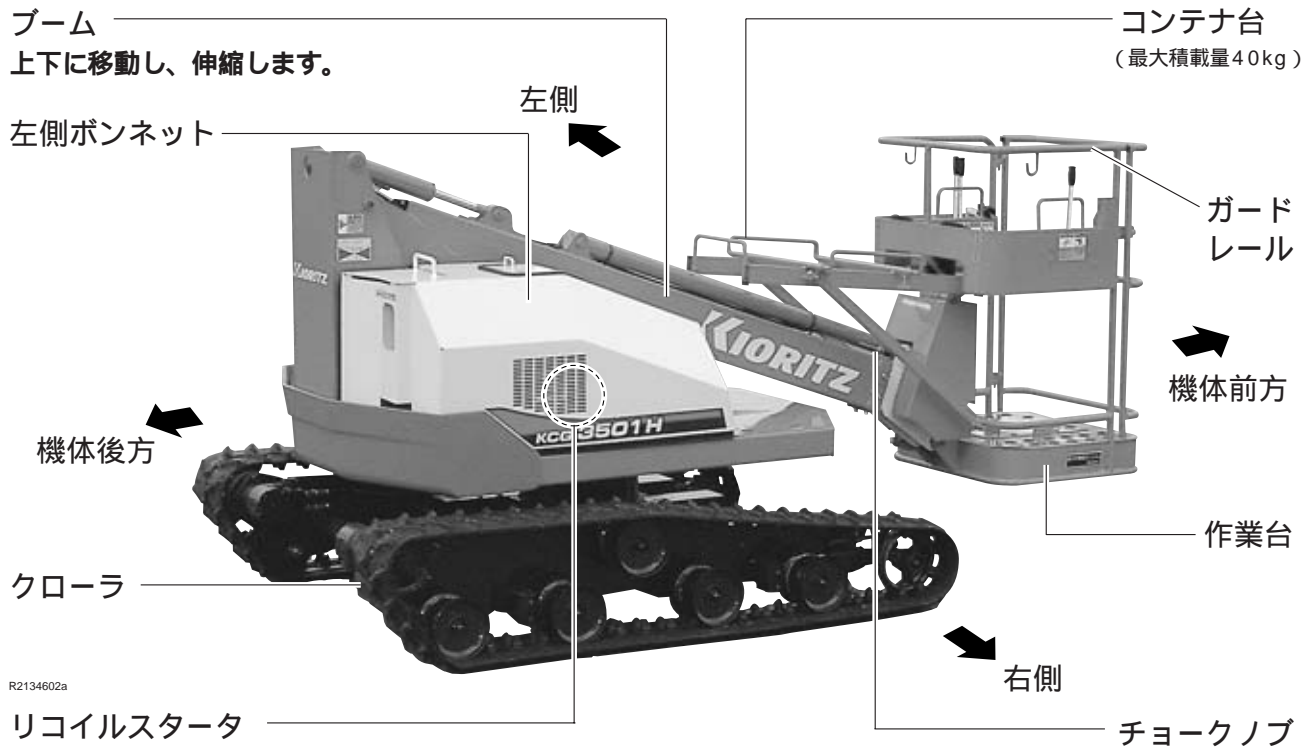
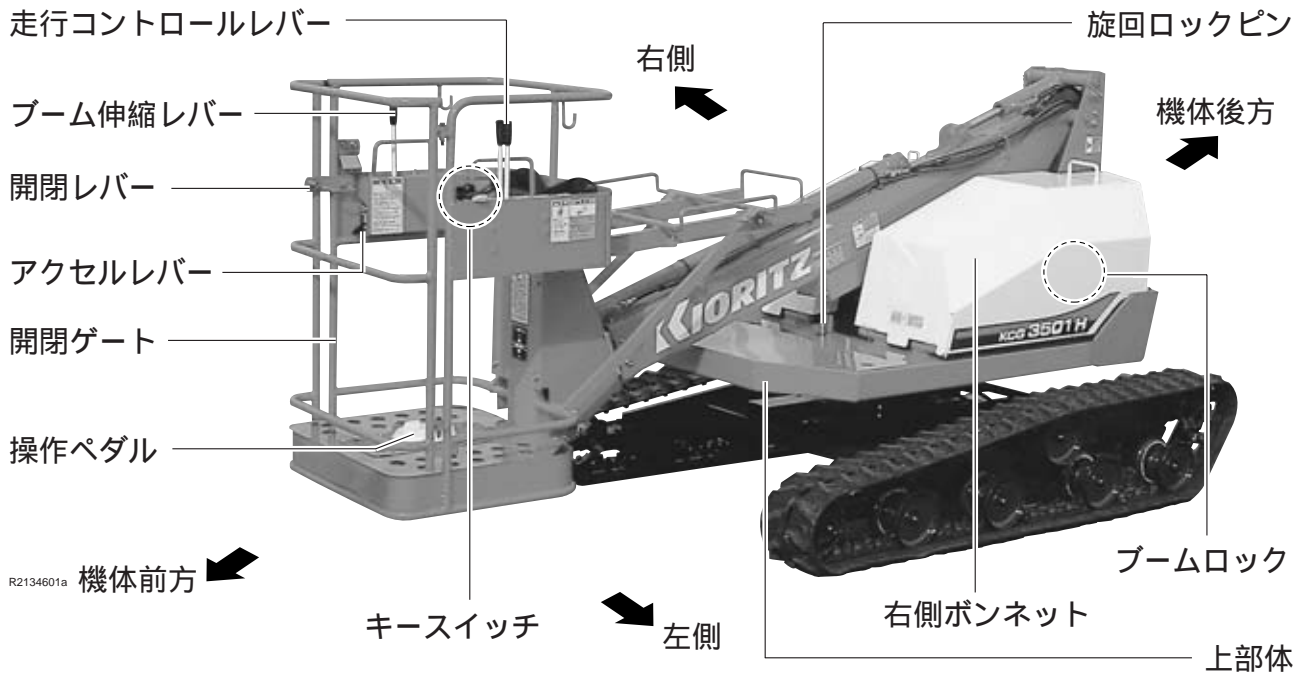
補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

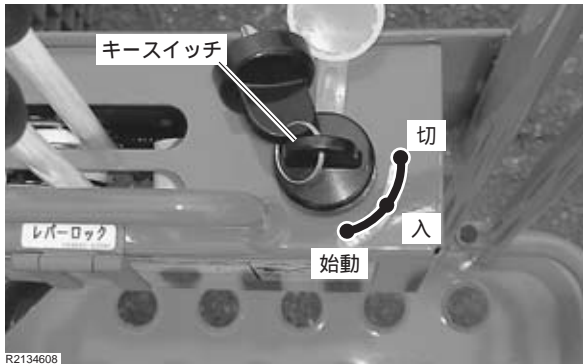
本書ではこのページの写真の姿勢を、標準姿勢と表現しています。

点検・整備、運転時および格納時は、本機をこのような姿勢にしてください。



キースイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。

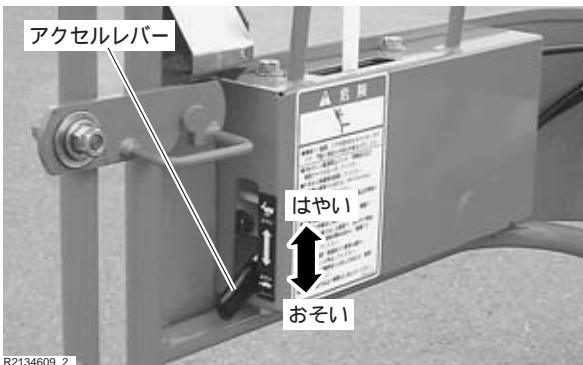


R2134608

- 「切」位置 エンジン停止時に使用する（電流は流れず、キーを抜き取れる）
- 「入」位置 各電装スイッチに電流が流れる
- 「始動」位置 ... セルモーターが回転し、エンジンが始動する
（エンジンが始動したらキーから手を離す。キーは自動的に「入」位置に戻り、連続運転に入る）

アクセルレバー

エンジンの回転の上げ下げに使用します。



R2134609_2

- 「はやい」 エンジンの回転が上がる。
- 「おそい」 エンジンの回転が下がる。

参考

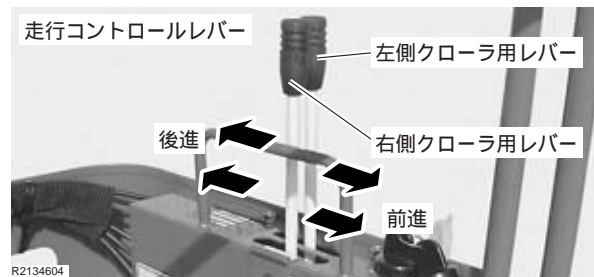
- ブームが一定高さまで上がると、安全のため自動的にエンジン回転が下がります。また、この高さ以上ではアクセルレバーを「はやい」側へ操作することができません。これは故障ではありません。このとき無理にアクセルレバーを操作しないでください。

走行コントロールレバー

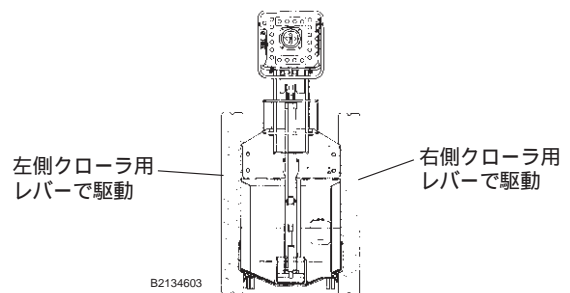
機体の前進・後進、および旋回に使用します。

左右のレバーは、それぞれ機体右側クローラ、左側クローラが作動するレバーです。

レバーを「N」位置にすると駐車ブレーキがかかります。



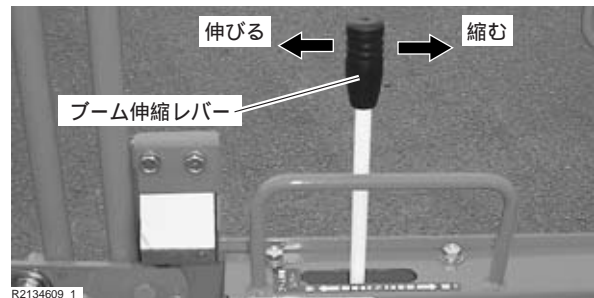
R2134604



B2134603

ブーム伸縮レバー

ブームを伸縮するときに使用します。



R2134609_1

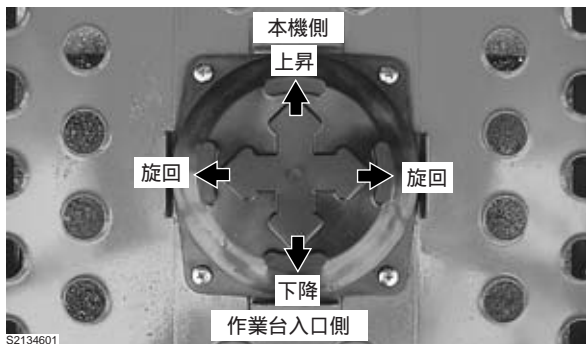
- 「伸」位置 ブームが伸びる。
- 「縮」位置 ブームが縮む。



R2134610

操作ペダル

ブームの上昇・下降、および上部体を左右に回転するとき使用します。



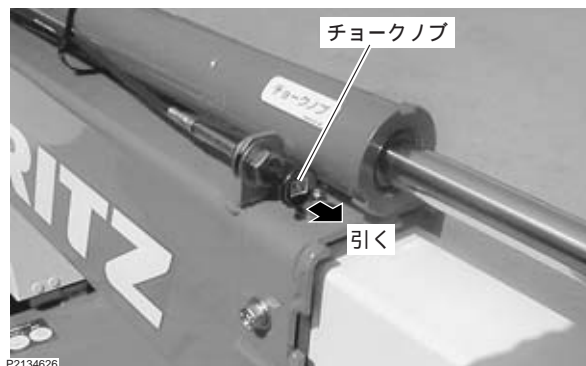
ブームの上昇・下降は、操作ペダルの上昇・下降側の矢印部を踏みます。

上部体を回転するときは、右旋回または左旋回側の矢印部を踏みます。旋回は360度できます。



チョークノブ

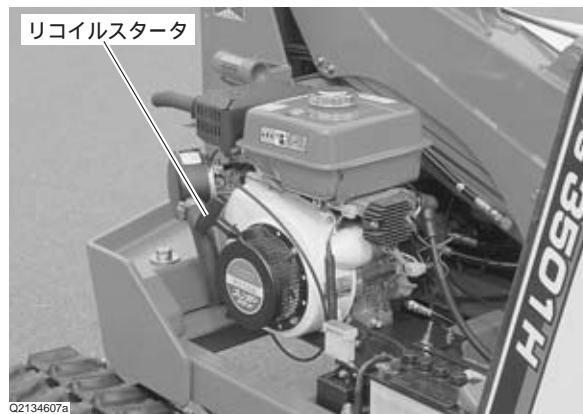
エンジンを供給する燃料の混合比を調節します。



エンジン始動時に、チョークノブを引くと、燃料の混合比が濃くなり、エンジンの始動がしやすくなります。

リコイルスタータ

バッテリー容量不足のとき、手動でエンジンをスタートさせるのに使用します。



右側ボンネット、左側ボンネットの開閉のしかた

取っ手を引いてボンネットを持ち上げてください。
(取っ手を引くとロックが外れます)

ボンネットを閉めるときは、取っ手を引いたまま下げて、確実にロックしてください。



危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。
- 燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。
- 燃料パイプが破損していると、燃料もれを起こしますので必ず点検してください。守らないと、ヤケドや火災を起こすおそれがあります。

警告

- 点検、整備は、交通の危険がなく機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所に歯止めをした上で行ってください。守らないと、思わぬけがをするおそれがあります。
- マフラー・エンジン回りのゴミは取り除いてください。火災事故やオーバーヒートを引き起こすことがあります。

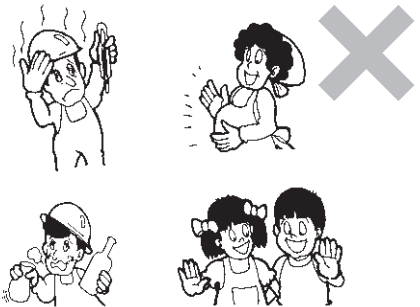
注意

- 点検、整備を行うときは、本機のエンジンを停止させてください。守らないと思わぬけがを負うおそれがあります。また、高温部分が冷えてから行ってください。高温部に触ると、ヤケドをするおそれがあります。
- 点検、整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。守らないと機械に巻き込まれて、傷害事故を起こすおそれがあります。
- 感電ショック防止のため、運転中はプラグコード、プラグキャップ、点火プラグ部に触れないでください。

1. 作業者の体調・服装について

体調について

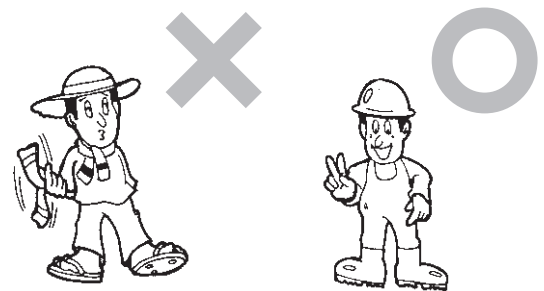
作業を行うときは、健康な状態で行ってください。過労・病気・薬物の影響、その他の理由で作業に集中できないときには、作業を行わないでください。特に、お酒を飲んで酔っている・妊娠している・18才未満の人は作業を行わないでください。



2010902

服装について

- 操作レバーや機械部品に引っかからない、だぶつきのない服装をしてください。
- ヘルメットを着用してください。
- タオルをはち巻き・首巻き・腰に挟んで作業を行わないでください。



2010903

2. 作業前の点検と準備

運転・作業を行う前の点検は、次の順序で行ってください。

点検箇所 参照ページ

前日の異常箇所

- 前日の作業中に異常を感じたところがありませんか

本機の周りを回ってみて

- 各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか
- クローラの損傷・ゆるみはありませんか48
- 各部注油箇所の油切れはありませんか39
- 各油圧部品の油もれはありませんか

右側ボンネットを開けてみて

- エンジンオイルの量と汚れ、油もれはありませんか42・43
- 燃料の量と燃料もれはありませんか26・45
- ホースの損傷はありませんか
- エアクリーナーの汚れはありませんか44
- 配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみはありませんか45
- マフラーなどの高温部分のほこり
- バッテリー液の量46・47

左側ボンネットを開けてみて

- 油圧作動油の量、油もれがありませんか43

エンジンを始動してみても

- エンジン始動後に異音はありませんか
- 排ガスの色は正常ですか
- レバー・スイッチの作動状態は正常ですか

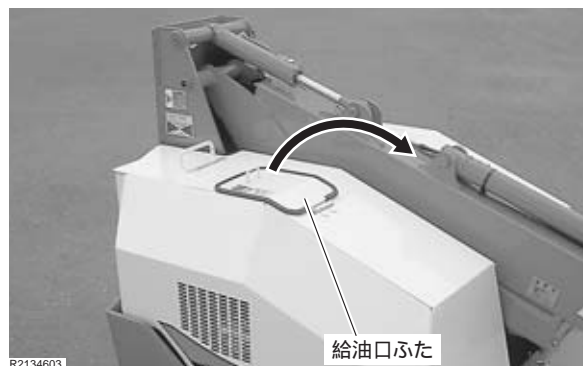
3. 燃料の点検・給油のしかた

⚠ 危険

- 燃料は、給油口フィルタ内の赤色凸部上面よりやや控えめに入れてください。機体が傾斜したときに燃料キャップから燃料があふれることがあります。万一、引火した場合、火災のおそれがあります。

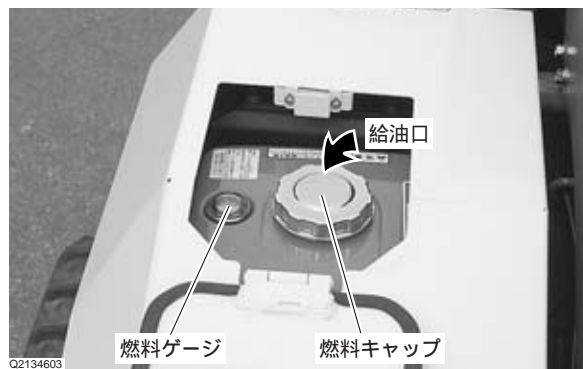
点検のしかた

- ① 給油口ふたを開きます。
- ② 燃料ゲージを見て燃料の量を調べます。
- ③ 不足している場合は、上部の給油口から補給してください。



給油のしかた

給油は「自動車用レギュラーガソリン」をあふれさせないように入れてください。万一あふれた場合は、きれいに拭き取ってください。燃料補給後は、燃料キャップを確実に閉めてください。



1. エンジンの始動のしかた

警告

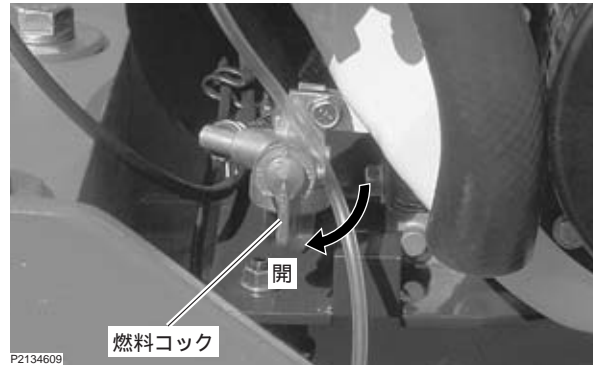
- エンジン始動時は、必ず走行コントロールレバーのロックがしてあること、およびブーム伸縮レバーや、操作ペダルの位置と周囲の安全を確認してください。守らないと、急に機械が動きだして、傷害事故を起こすおそれがあります。
- エンジンを始動するときは、周囲の人へ合図をしてください。
- エンジンをかけるときは、他の人を本機に近付けないでください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- エンジンの始動および暖機運転は、閉めきった屋内で行わないでください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分換気をしてください。排ガスによる中毒で死亡事故につながるおそれがあります。

注意

- エンジンを始動する前に、運転前・作業前の点検を行ってください。点検せずにエンジンを始動すると、整備不良のために傷害事故や機械の故障を引き起こす場合があります。
- 運転中、エンジン・マフラーは高温になりますので触らないでください。
- エンジンを停止しても、エンジンやマフラーなどの加熱部分にはすぐに触れないでください。守らないと、ヤケドをするおそれがあります。
- リコイルスタータを引くときは、後に人がいないことを確認してください。
- 作業時以外は、エンジンを停止してください。

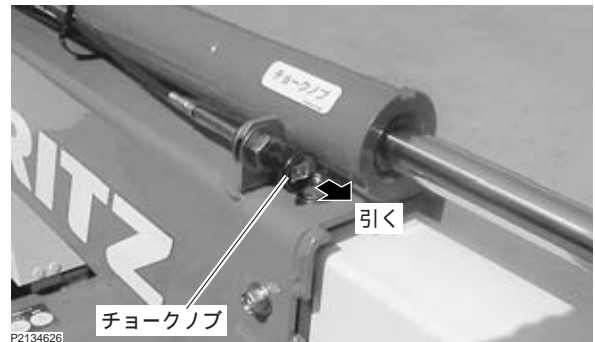
1. エンジンの始動のしかた

- ① 右側ボンネットを開けてください。
(24ページ参照)
- ② 燃料コックを「開」の位置にしてください。

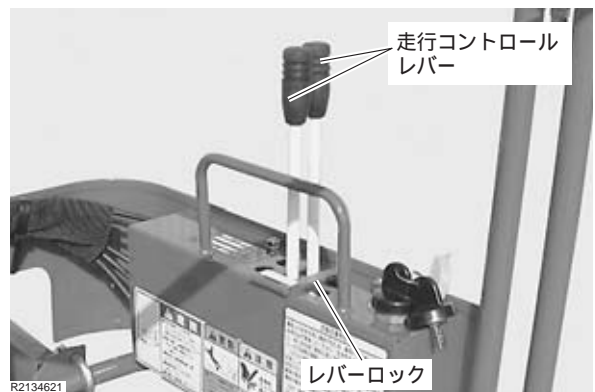


燃料コックを「開」にした後は、右側ボンネットを閉めてください。

- ③ チョークノブを引いてください。



- ④ 走行コントロールレバーが「N」位置にあり、レバーロックで固定されていることを確認してください。



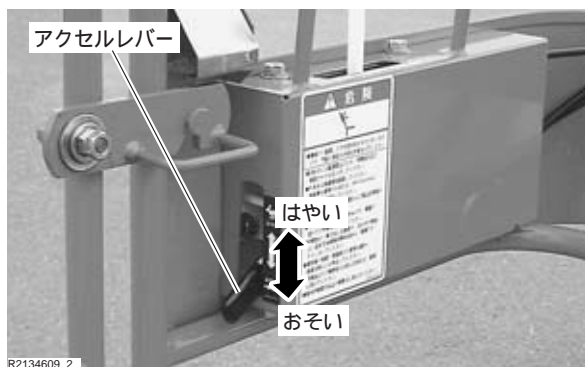
- ⑤ ブーム伸縮レバーが「N」位置にあることを確認してください。



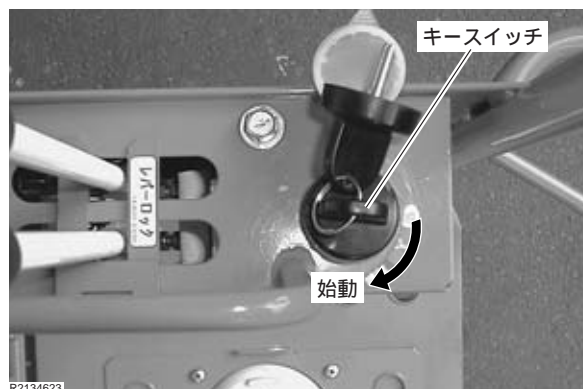
- ⑥ 操作ペダルが「N」位置にあることを確認してください。(作業台床面に対して、水平)



- ⑦ アクセルレバーを「おそい」と「はやい」の中間位置に合わせてください。



- ⑧ 走行コントロールレバー、ブーム伸縮レバーおよび操作ペダルに触れずに、キースイッチを「始動」位置にしてください。エンジンが始動します。



- ⑨ エンジンが始動したら、チョークノブを徐々に押し戻し、アクセルレバーを「はやい」側にして約30秒間運転をしてください。その後「おそい」側で約5分間暖気運転をしてください。

取扱いの注意

- 約10秒以上セルモータを使ってもエンジンがかからない場合、いったんキースイッチを切り、1分以上バッテリーを休ませてから、再び始動させてください。
- エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「始動」位置にしないでください。
- 数回⑧の操作をしてもエンジンが始動しない場合、そのまま何回も繰り返すと燃料の吸い過ぎとなりますのでチョークノブを元に戻してから再び、⑧の操作を行ってください。

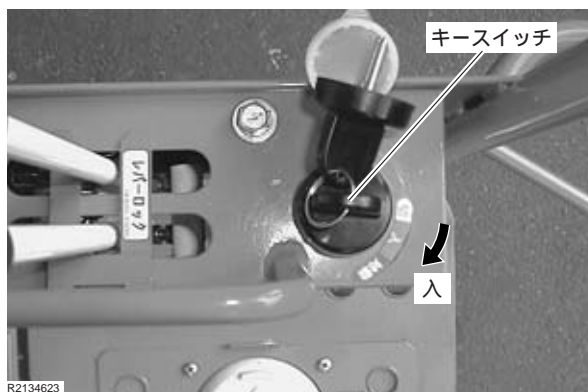
2. リコイルスタータによる始動のしかた

バッテリーの容量不足でセルスタートができない場合は、次の要領で始動してください。

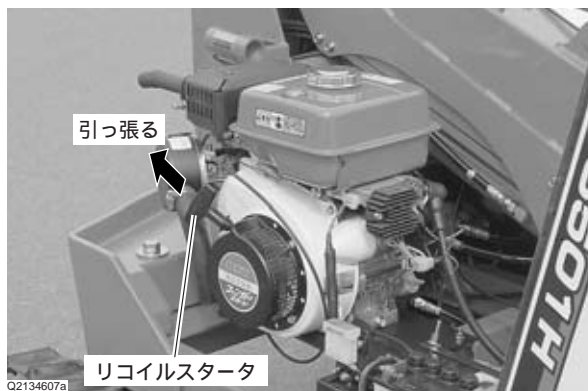
①27・28ページの「エンジンの始動のしかた」の

①～⑦までの操作をしてください。

②キースイッチを「入」位置にしてください。



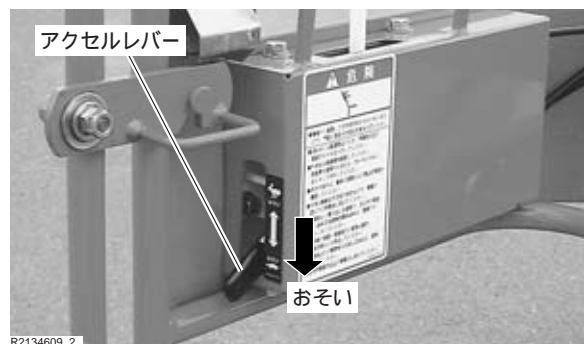
③右側ボンネットを開け、リコイルスタータを勢よく引っ張ってください。



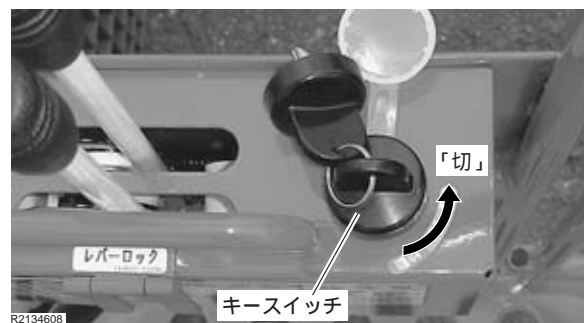
1回で始動しない場合は、③を繰り返してください。

2. エンジンの停止のしかた

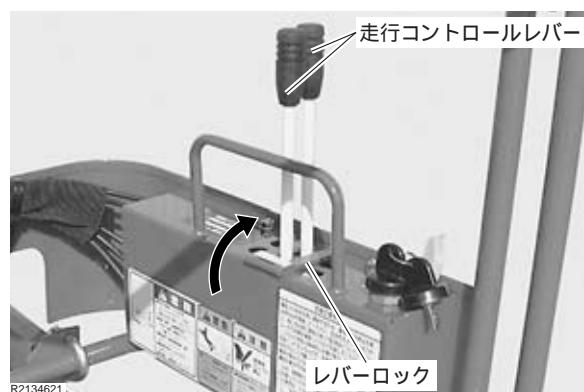
①アクセルレバーを「おそい」側にしてください。



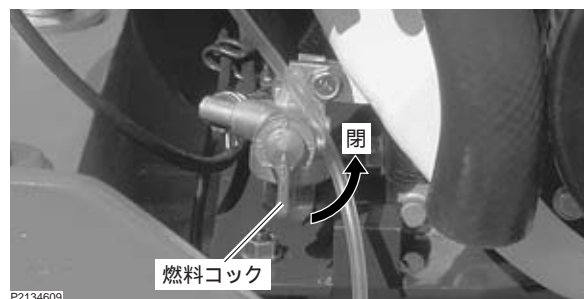
②キースイッチを「切」位置にしてください。エンジンが停止します。



③走行コントロールレバーを、レバーロックで固定してください。



④右側ボンネットを開け、燃料コックを「閉」の位置にしてください。



3. 発進・旋回・停止のしかた

⚠ 危険

- 発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときは、十分にスピードを落としてください。坂道・路肩・凸凹道やカーブの多い場所では、十分に速度を落としてください。思わぬ事故の原因となります。
- 急傾斜地での走行はしないでください。転倒して事故をまねくおそれがあります。
- 本機を使用して夜間の作業はしないでください。視界がきかず、バランスを崩し転落、転倒などの事故によりケガをするおそれがあります。
- 本機から離れるときにはブームをいっぱい下げてから離れてください。何らかの原因でブームが下降し傷害事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

- 発進するときは、機体の進行方向、各レバーの位置と周囲の安全を確かめて発進してください。守らないと思わぬ事故、ケガをまねくおそれがあります。
- 本機から離れるときは、本機を平坦で安定した場所に置き、必ずエンジンを止めてください。また、走行コントロールレバーをレバーロックで固定し、キーを抜き取ってください。守らないと本機が動きだし、事故を起こすおそれがあります。
- 急な下り坂では、走行コントロールレバーの旋回操作をしないでください。思わぬ方向に機械が旋回して転落などの事故をまねくおそれがあります。

⚠ 注意

- 小型特殊自動車の型式認定を受けていません。法令により公道走行はできません。

発進のしかた

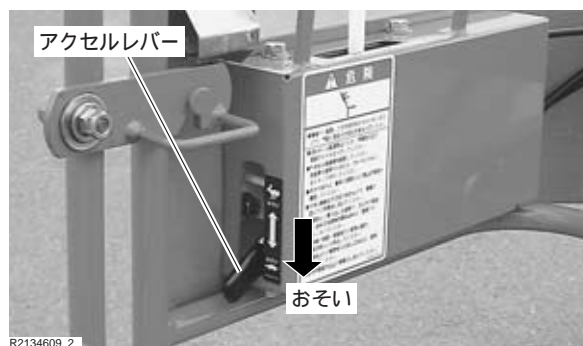
⚠ 危険

- 歩行運転する場合、転倒しないように足元に十分注意し、周囲に障害物がないか注意してください。障害物と本機の間にはさまれてケガをするおそれがあります。

⚠ 警告

- 急坂道やアユミ板の上では、十分に速度を落として移動してください。
- 通常走行は、標準姿勢（→22ページ参照）で行ってください。

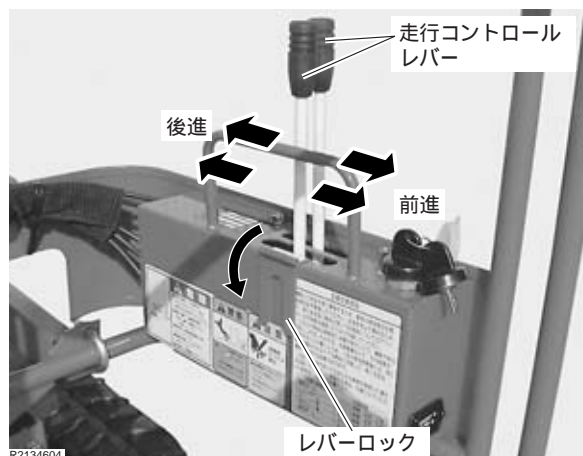
① アクセルレバーを「おそい」側にしてください。



② 機体の進行方向を確認してください。

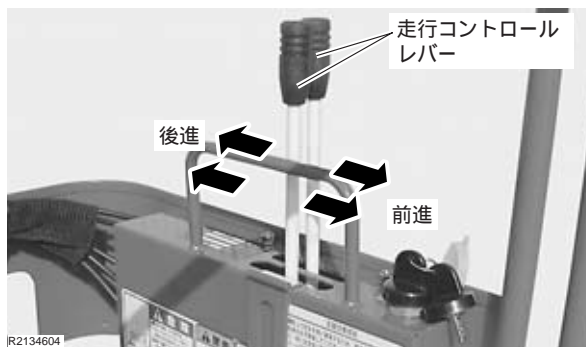
③ 走行コントロールレバーのレバーロックを解除してください。

④ 走行コントロールレバーを2本同時にゆっくり「前進」位置または、「後進」位置にしてください。機体が発進します。



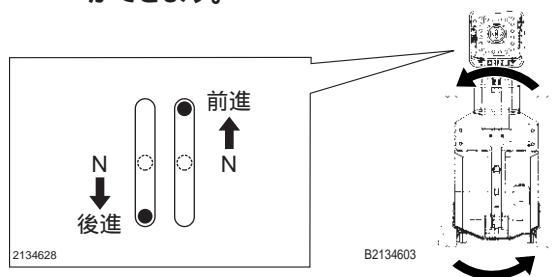
機体の旋回のしかた

- ①機体の進行方向を確認してください。
- ②旋回しようとする側の安全を確認してください。
- ③旋回したい側と反対の走行コントロールレバーを「前進」位置、または「後進」位置にしてください。機体が旋回します。
- ④旋回後は走行コントロールレバーを戻してください。



参考

- 急旋回する場合
左右の走行コントロールレバーをそれぞれ逆方向に操作すると、その場で急旋回することができます。

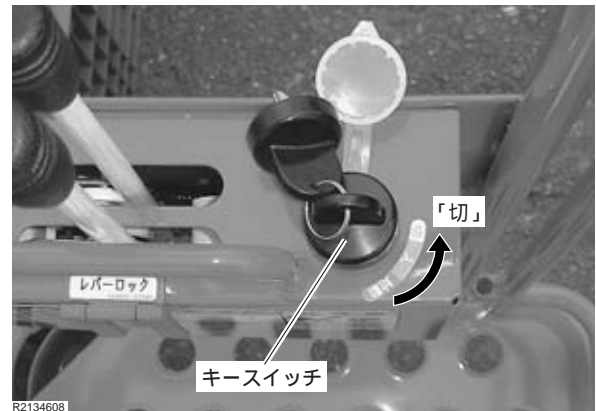


停止のしかた

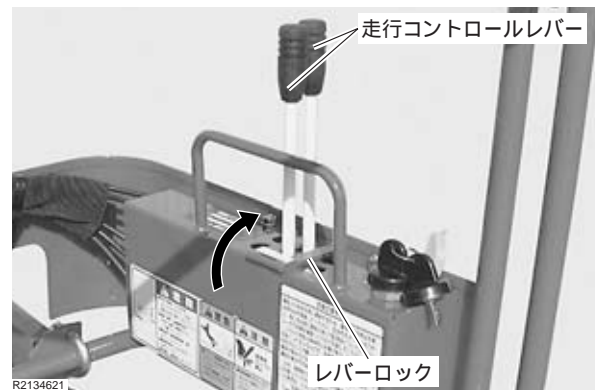
- ①走行コントロールレバーを「N」位置にして、機体が停止したことを確認してください。
- ②アクセルレバーを「おそい」側にして、エンジン回転を落としてください。



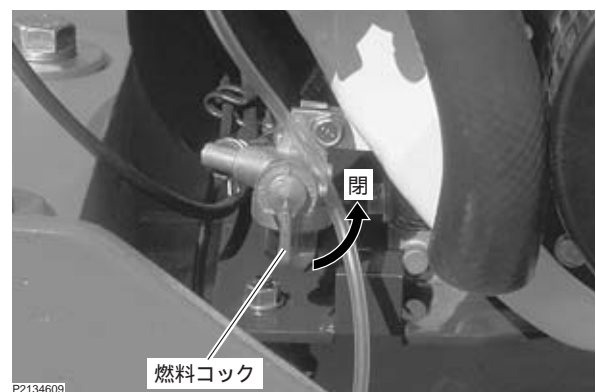
- ③キースイッチを「切」位置にしてください。エンジンが停止します。



- ④走行コントロールレバーを、レバーロックで固定してください。



- ⑤燃料コックを「閉」にしてください。



駐車 of しかた

⚠ 注意

- 平坦で堅固な場所に止めてください。

4. 坂道での運転のしかた

警告

- 坂道を走行中は、急な旋回をしないでください。
- 坂道では駐車しないでください。
- 走行は標準姿勢（→22ページ参照）で行ってください。
- 坂道では、スピードに十分注意して、ゆっくりと走行してください。
- 上り坂で発進する場合は、エンジン回転を落としてゆっくり発進してください。
- コンテナ台には荷物を積まないでください。

警告

- 急発進すると、前側がはね上がり大変危険です。
- 坂道では、歩行運転をしてください。

急な坂道の場合

- 進行方向

		機体の方向
進行方向	登り	後進
	降り	前進

- 移動速度
アクセルレバーは、「おそい」の位置でゆっくり登り降りしてください。

警告

- 急な坂道の場合は、進行方向や速度を誤ると、転倒してケガをするおそれがあります。必ず上記の方法に従ってください。

5. 樹園への出入りのしかた

- あぜ越えや段差を乗り越える時は、十分強度のあるアユミ板を使用してください。
- コンテナ台には荷物を積まないでください。
- 作業台は上げないで、重心を低くしてください。

6. トラックでの運搬のしかた

⚠ 警告

- 積み・降ろしをする場所は、平坦で安定した、交通などの危険がない場所を選んでください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキをかけ、「歯止め」をしてください。
- 使用するアユミ板は、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないものを選び、アユミ板が外れないように、フックをトラックの荷台にしっかり掛けてください。
- 作業台をいっぱいに下げて、荷物は積まないでください。
- 本機に乗っての運転は厳禁です。
- 誘導者は、機械の直前に立たないでください。機械が不意に動いたときに思わぬ事故やケガをまねくおそれがあります。
- 本機の積み・降ろしは、歩行運転で操作をしてください。積み込みは「後進」、降ろしは「前進」で行ってください。さらに、アクセルレバーは「おそい」位置にし、ゆっくりと行ってください。守らないと転倒・転落による事故やケガをまねくおそれがあります。
- トラックへの積み・降ろしは、アユミ板の上で進路変更をすることがないように、進路を定めて最低速度で行ってください。進路を変えるための、走行コントロールレバーの操作は絶対にしないでください。守らないと転落などの事故を起こすおそれがあります。
- 本機がアユミ板とトラックなどの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わりますので、十分に注意してください。転倒・転落による事故やケガをまねくおそれがあります。
- トラックなどに積んで移動するときは、十分強度のあるロープを使用し、確実に固定してください。さらに「歯止め」をしてください。守らないと、機械の転落や、運転席への突っ込みによる重大な事故やケガをまねくおそれがあります。

- トラックなどで運搬するときは、必ず旋回ロックピンをセットしてください。(34ページ参照)

① アユミ板について

アユミ板は、下記の基準に合ったものを使用してください。

アユミ板の基準

- 長さ...トラックの荷台高さの4倍以上。
- 幅.....本機のクローラ幅に合ったもの。
- 強度...本機の重さに十分耐えられるもの。
- 表面...すべらないよう処理してあるもの。
- トラックの荷台に引っ掛けるためのフックが付いているもの。

② トラックの準備

- ① トラックは、平坦で安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車してください。
- ② トラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキを掛けてください。
- ③ タイヤに歯止めをしてください。
- ④ トラックの荷台にアユミ板のフックを段差ができないように、確実に掛けてください。

③ 本機の積み込みかた

運転者は、作業台から降りて操作してください。

- ① 本機を標準姿勢(22ページ参照)にしてください。



R2134612a

- ②機体上部が動かないように、旋回ロックピンをセットしてください。(次頁参照)
- ③左右のクローラがアユミ板の中央に位置するように、本機を移動してください。
- ④走行コントロールレバーを「低速」位置にし、積み込みの場合は「後進」で、降ろしの場合は「前進」で行ってください。

7. 旋回ロックピンのセット・解除のしかた

本機を輸送するときは、上部体が動かないように旋回ロックピンで固定してください。

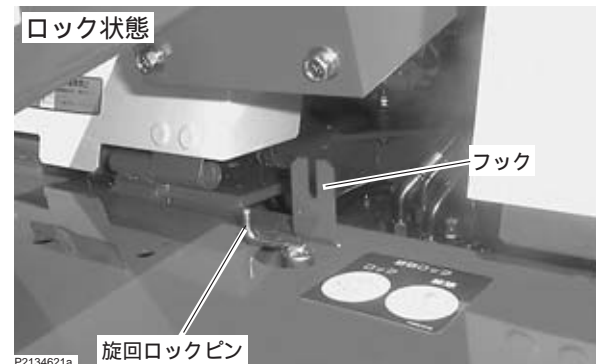
セットのしかた

- ①ブームをクローラと平行にして、標準姿勢(22ページ参照)にしてください。

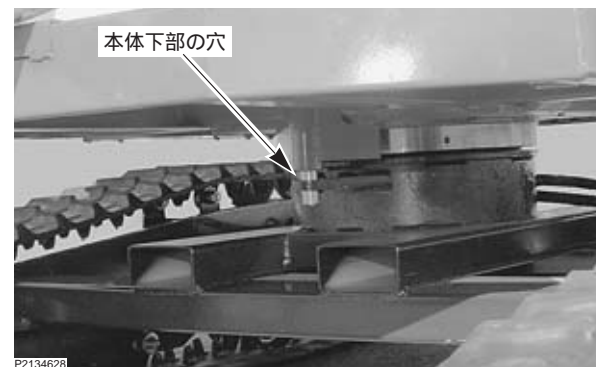


R2134601a

- ②旋回ロックピンを、フックから外して本体下部の穴に差し込んでください。



P2134621a



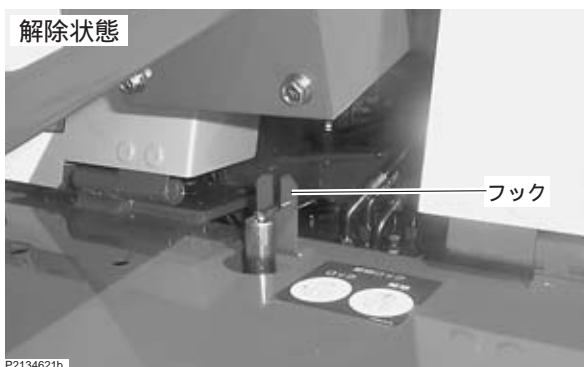
P2134628

取扱いの注意

- 旋回ロックをした状態では、操作ペダルで上部体の旋回をしないでください。機体が破損します。

解除のしかた

旋回ロックピンを抜いてフックに引っ掛けてください。



8. 各部の操作のしかた

⚠ 危険

- 作業台の開閉ゲートは、確実にロックしてください。開閉ゲートが勝手に開いて転落事故を起こすおそれがあります。
- コンテナ台には、40kg以上の荷物を積まないでください。機械が転倒して思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- 積載物はコンテナ台からはみ出さないようしてください。荷くずれを起こし転倒・転落事故を起こすおそれがあります。
- 最大作業能力100kg（作業台に乗る作業者の全体重を含む）以上の荷物を積まないでください。機械が転倒して思わぬ事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

- 積荷が高くなると機械のバランスが崩れやすく、また障害物の確認ができませんので積載物を高く積まないでください。転倒・転落により思わぬ傷害事故の原因となります。
- 積載物は確実にロープを掛けて固定してください。荷くずれをおこし転倒・転落事故を起こすおそれがあります。
- 坂道では、荷物を積んだまま走行しないでください。
- ブームを水平にすると、機械のバランスが崩れやすくなりますので、注意してください。転倒・転落事故を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- コンテナ台には人を乗せたり、乗って運転したりしないでください。転落などにより、思わぬ傷害事故の原因になるおそれがあります。

- 操作ペダルを踏んだまま、キースイッチを「入」にしないでください。ブームが動き、ハサマレ・転倒・転落により思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- 作業中、木や枝などに、挟まれないように注意してください。
- 作業中は、開閉ゲートが確実にロックされていることを確認してください。

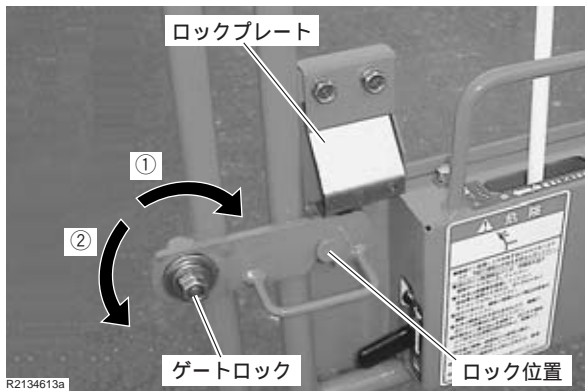
作業台開閉ゲートのロック・解除のしかた

作業台に乗車して運転するときは、入口の開閉ゲートを必ずロックしてください。

ロックのしかた

開閉ゲートを閉めて、ゲートをロック位置まで矢印

①方向に回して下さい。



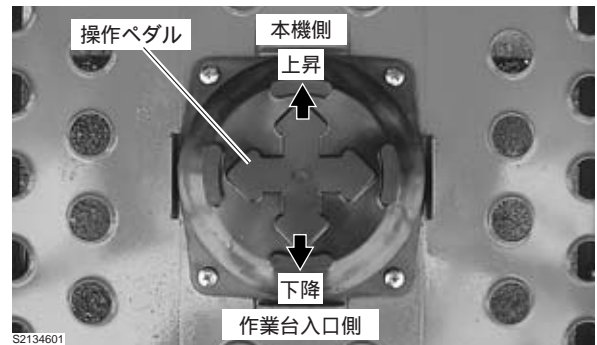
解除のしかた

ロックプレートを手で押しながら、ゲートロックを矢印②の方向に回してください。

リフト操作のしかた

作業台を上昇・下降させたいときは、操作ペダルを使用します。

- 操作ペダルの前の「↑」部を踏むと上昇します。「↓」部を踏むと下降します。
- 操作ペダルを踏んでいる間は、上昇または下降します。
- 希望の位置まで移動したら足を離してください。その位置で止まります。



取扱いの注意

- ブームを伸ばしたまま下降すると、作業台下部が地面と接触します。接触しない位置で止めてください。

⚠ 注意

- 作業台下側には絶対に足などを入れないでください。作業台が下がったときに地面と挟まれてケガをするおそれがあります。

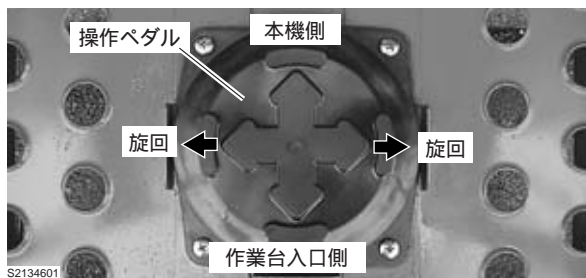
参考

- 操作ペダルの下降側を急激に踏むと、本機側よりバルブの作動音が聞こえる場合がありますが、故障ではありません。

旋回操作のしかた

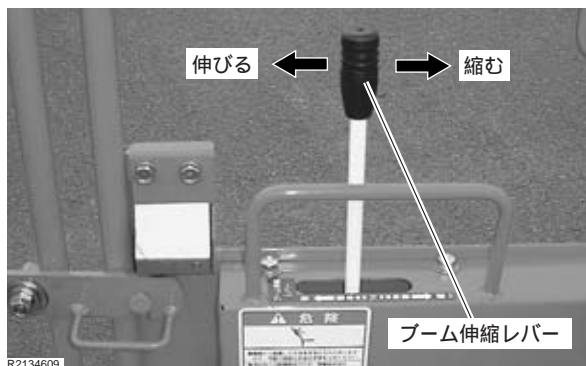
作業台を左または右に旋回するときは、操作ペダルを使用します。

- 操作ペダルの「←」または「→」部を踏むと、踏んだ矢印の方向に旋回します。
操作ペダルを踏んでいる間は、旋回を続けます。
- 希望の位置まで移動したら足を離してください。旋回が止まります。



ブームの伸縮のしかた

ブームを伸縮するときは、ブーム伸縮レバーを操作してください。



⚠ 注意

- ブームを下げたままブームを伸ばすと、作業台と地面の距離が小さくなり、足などを挟むおそれがあります。
- 歩行運転時は、必ずブームを縮めて運転してください。守らないと傷害事故を起こすおそれがあります。

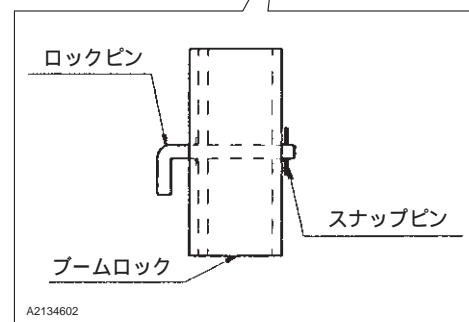
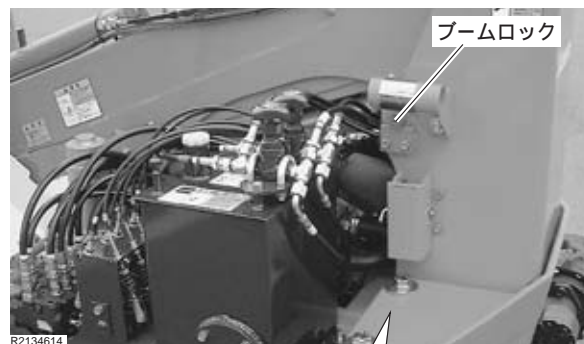
ブームロックの装着のしかた

⚠ 警告

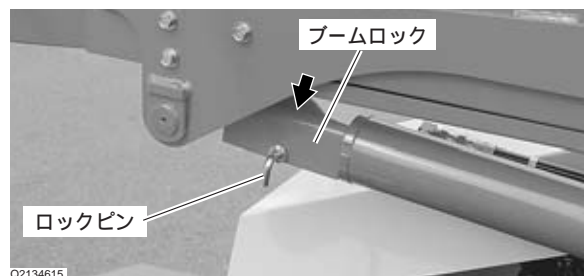
- ブームを上げて点検・整備を行うときは、必ずブームロックを装着してください。ブームと本機との間にはさまれて、ケガをするおそれがあります。

装着のしかた

- ① ブームを地面と水平になる位置より少し上げてください。(5度程度)
- ② エンジンを停止してください。
- ③ 右側ボンネットを開けてください。
- ④ スナップピンとロックピンを抜いて、ブームロックを本機より取り外してください。



- ⑤ ブームロックをブーム起伏シリンダに矢印方向より取り付けてください。
- ⑥ ロックピンをブームロックに差し込み、スナップピンを取り付けて、ブームロックがブーム起伏シリンダから外れないようにしてください。



⚠ 危険

- 燃料を抜くときは、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。燃料などに引火し火災を起こすおそれがあります。
- エンジンを止め、エンジン、マフラーなどの高温部が冷えてから、必ず燃料受けを用意して、燃料をこぼさないようにしてください。
- シートをかける場合は、エンジンを停止し、エンジンやマフラーが十分冷えたことを確認してからかけてください。守らないと、火災を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

- お手入れは、平坦な安定した場所で行ってください。守らないと機械が転倒して、思わぬケガをするおそれがあります。
- 格納時は平坦で安定した場所に置いてください。守らないと本機が自然に動いて事故になります。

⚠ 注意

- お手入れは、エンジンを停止させて行ってください。守らないと思わぬケガを負うおそれがあります。また、高温部分が冷えてから行ってください。高温部に触れると、ヤケドをするおそれがあります。
- 近くに燃えやすいものがあれば取り除いてください。火災の原因になります。

1. 作業後の手入れ

その日の内に水洗いし、水洗い後は良く水分をふき取って、各回転・揺動部に油をたっぷりさしてください。

取扱いの注意

- エアクリーナについた土やホコリを落としてください。リコイルスタータ部の網目を点検し、ワラクス、草などは必ず取り除いてください。

⚠ 警告

- エンジン・マフラーなどにワラクスや枯草などが堆積したまま運転しますと火災の原因になります。

取扱いの注意

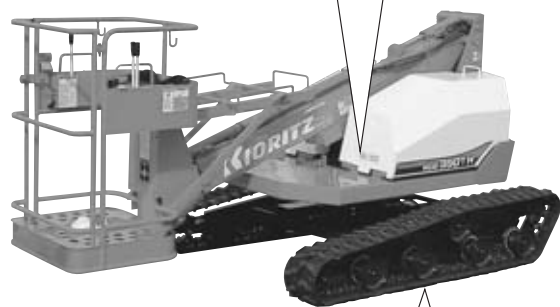
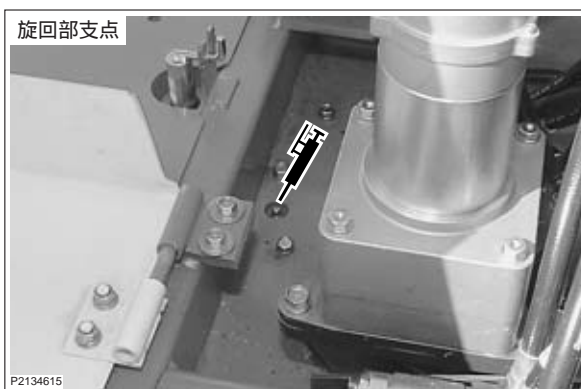
- 水洗いするときは、エアクリーナの吸気口に水が入らないようにしてください。電装品には水をかけないようにしてください。故障の原因となります。

2. 各部注油・グリースアップのしかた

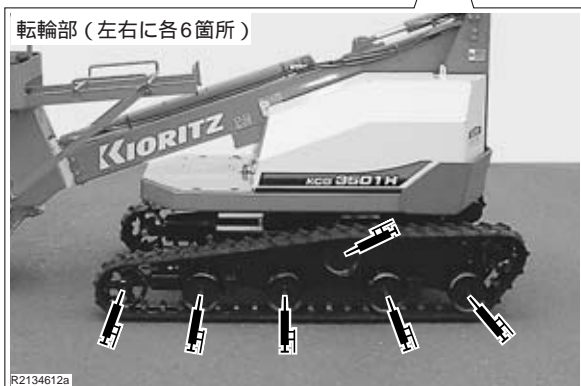
⚠ 注意

- 記載されている以外にも、摩擦部や摺動部には必ず注油・グリースアップをしてください。作動不良をまねいて物損・傷害を起こすおそれがあります。
- 定期的に油さし、グリースポンプで確実に注油・グリースアップしてください。

凡例  グリースアップ位置



R2134601a



R2134601a



R2134616

3. 長期間使用しない場合の手入れ

⚠ 警告

- 格納する場合はバッテリーを取り外し、キーを抜き取って保管してください。守らないと事故を起こすおそれがあります。

取扱いの注意

- 本機は、標準姿勢(ブーム最下、最縮)にしてください。

エンジン部の手入れ

- ① エンジンを低速で運転(約5分間)した後、停止してください。
- ② 燃料受けを用意してください。
- ③ ドレンプラグを外し、エンジンが暖かいうちにエンジンオイルを抜き出して、新油と交換してください。



エンジンが熱い間は、作業しないでください。

- ④ 点火プラグを外し、点火プラグの穴からエンジンオイルを10cc位入れてください。
- ⑤ リコイルスタータを2~3回引きます。(エンジンを始動させてはいけません。)
- ⑥ 再び点火プラグを取り付け、リコイルスタータを軽く引き、重たくなった(圧縮のある)所で止めておいてください。

参考

- 圧縮のある位置では、吸排気弁が閉じており、湿気によるエンジン内部の発錆を防ぎます。



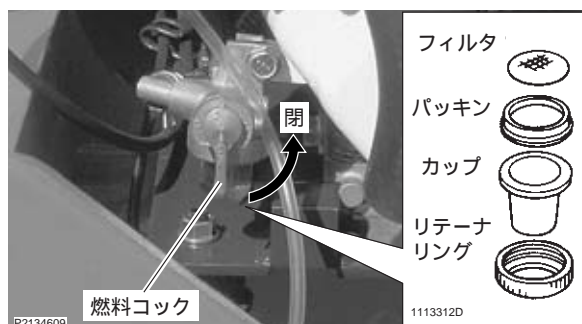
- ⑦ プラグコード・プラグキャップは、確実に差し込んでください。
- ⑧ 燃料タンク・キャブレタ・燃料コシ器の中の燃料は、抜き取っておいてください。
- ⑨ 抜き取ったエンジンオイルや燃料は、適切な方法で処理してください。

使用工具

- ・メガネレンチ12mm
- ・ボックススパナ21(付属品)
- ・ボックススパナハンドル(付属品)

燃料抜きの手順

- ① 燃料タンク内の燃料を抜いてください。
- ② 燃料コックを「閉」にしてください。
- ③ 燃料コシ器のリテーナリングを回してカップを取り外し、カップ内の燃料を抜いてください。
- ④ カップ・リテーナリングを元通りに取り付けてください。



- ⑤ キャブレタの中の燃料は、キャブレタ下部の燃料ドレンビスをゆるめて抜き取ってください。
- ⑥ ドレンビスを元通りに締め込んでください。

使用工具

- ・⊕ ドライバ
- ・プライヤ



⚠ 危険

- 部品の交換、および草・ワラズなどのゴミを取るときは、エンジンが冷えてから行ってください。
- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は、絶対しないでください。
- エンジンの回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油はしないでください。
- ブームを上げての点検・整備はしないでください。何らかの原因でブームが落下し、傷害事故を起こすことがあります。

⚠ 警告

- 点検、整備は交通の危険がなく、本機が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、クローラに歯止めをして行ってください。守らないと、転倒などの事故を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 1年ごとに定期点検、整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料パイプやゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検してください。守らないと、整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。
- 点検、整備、修理をするときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと思わぬケガを負うおそれがあります。また高温部が冷えてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。
- 点検、整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてから作動確認をしてください。衣服などが巻き込まれて危険です。

1. 定期点検・整備の時期について

定期点検や整備は、農閑期に行いますと農繁期に機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するため、1年ごとに販売店・JA・整備工場で定期点検を受け、各部の安全を確認してください。安全性をより高めるために、特に安全面に関係の深い下記部品についてはアワーメータで時間を確認した上で交換してください。

これらの部品は経時的に材質が変化したり、摩耗や劣化を起こしやすいものです。定期整備などで、その程度を判定することが難しいため、一定の使用時間後には、特に異常が認められなくても新品と交換して、常に安全な機能を維持する必要があります。なお、期間前であっても何らかの異常を発見した場合は交換してください。部品交換は、お買い上げいただいた販売店・JAにご依頼ください。

定期交換部品	交換時期
燃料ホース	2000 時間 または 2 年
シリンダピン	3000 時間 または 3 年
ブーム支点軸	4000 時間 または 4 年
平行リンク軸	4000 時間 または 4 年
油圧ホース	4000 時間 または 4 年



S2134602

2. 点検一覧表

点検・調節箇所	規定量	内 容	点検・交換時期	参 照 ページ
エンジンオイル	0.6 ℓ	エンジンオイルSE級以上 夏 期 (20 以上) ..SAE30 秋・春期 (10 ~ 20) ..SAE20 冬 期 (10 以下) ..SAE10W-30 交換	1回目：20時間目 2回目以降： 50時間ごと	42
油圧作動油	タンク内 10ℓ 他 3ℓ } 3ℓ	油圧作動油...ISO VG 46 補給	交換：500時間ごと	43
エアクリーナ	-	洗浄または交換	30時間ごとと洗浄 汚れているときは 都度交換	44
燃料コシ器	-	洗浄	都度	44
燃料パイプ	-	結合部の点検、交換	2年ごとに交換	45
電気配線	-	被覆のはがれや傷の点検	毎年点検	45
点火プラグ	-	清掃	200時間ごと	45
バッテリー	28A19L	点検、蒸留水補給		46
フィルタエレメント (戻しフィルタ)	-	交換	200時間ごと	48
サクシジョンストレーナ (作動油タンク)	-	洗浄	作動油交換時	47
転輪取付ボルト	-	点検(増締め)	50時間ごと	49
エンジン取付ボルト、ナット	-	点検(増締め)	50時間ごと	49
クローラ張り量	-	テンションボルトの締め込み	点検：始業時 調整：1回/1年	48

3. 各部オイルの点検・交換のしかた

古くなったオイルは、機械の性能を落とすだけではなく、故障の原因にもなります。

定期的に古いオイルを抜き取り、新しいオイルを規定量給油してください。

エンジンオイル

エンジンオイルの点検・交換は、エンジン始動前か、エンジンが冷えているときに行ってください。

取扱いの注意

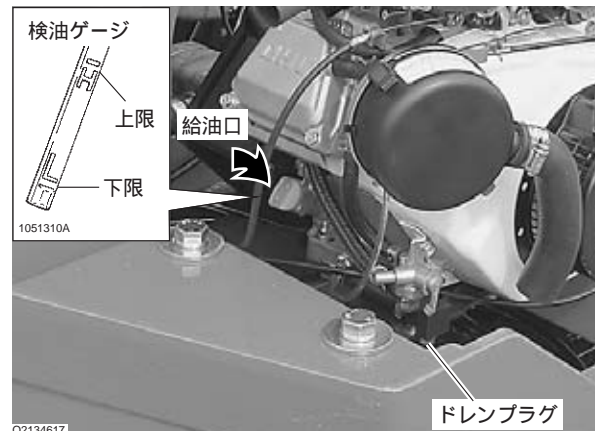
- オイルの量はエンジンを停止して調べてください。

警告

- 熱いオイルが体にかかるとヤケドするおそれがあります。

点検のしかた

- ① 機体を水平なところに移動してください。
- ② 左側ボンネットを開けてください。
- ③ 給油口のふたを外してください。
- ④ 検油ゲージの先端をきれいに拭き、ねじ込まない状態で差し込み、再び抜いて検油ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べてください。



交換のしかた

- ① 検油ゲージを取り外してください。
- ② ドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出してください。
- ③ 給油は、給油口より検油ゲージの規定量 (0.6 l) まで入れてください。
- ④ 抜き取ったエンジンオイルは、適切な方法で処理してください。

使用工具

- ・メガネレンチ12mm

参考

- エンジンが温かいうちに抜くと容易に抜くことができます。

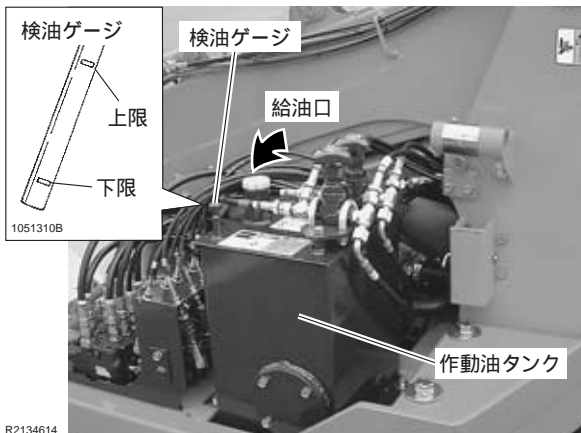
取扱いの注意

- 給油するオイルは、必ず規定のオイルを使用してください。
- オイルの点検・交換作業後はドレンプラグや給油口のふたは確実に締め付けてください。

油圧作動油

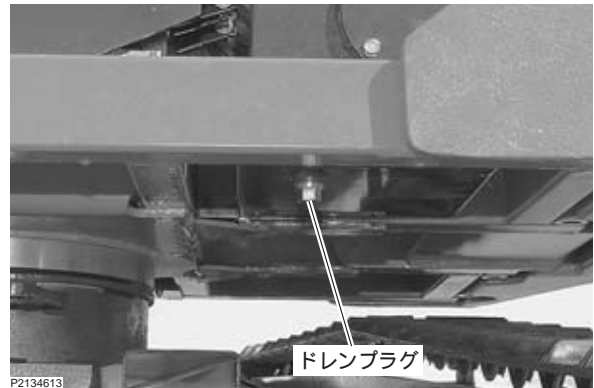
点検のしかた

- ① 作業台を標準姿勢 (ブーム最下、最縮) にしてください。
- ② 右側ボンネットを開けてください。
- ③ 検油ゲージ先端をきれいに拭き、元に戻してから再び抜いて、検油ゲージの上限と下限との間にオイルがあるか調べてください。



補給のしかた

オイルゲージの規定範囲より少なければ、給油口から補給してください。



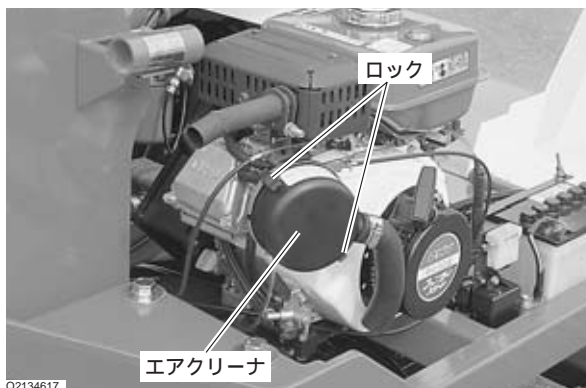
交換

購入先で交換を依頼してください。サクシオンストレーナの洗浄も同時に行ってください。

4. エアクリーナの掃除・交換のしかた

エアクリーナは、いつもエンジンを快適にする装置です。汚れたまま使用しますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

- ① ロックを外してエアクリーナを取り外してください。



- ② 中のエレメントを取り外してください。
- ③ エレメントに圧縮空気を内部から吹き付け、ゴミ・ホコリを取り除きます。



5. 燃料コシ器の掃除のしかた

⚠ 危険

- 燃料コックが「開」になったままで燃料コシ器を外すと、燃料タンク内の燃料が流れ出ます。万一、引火した場合、火災のおそれがありますので、必ず、燃料コックを「閉」にしてください。

燃料の中に入ったゴミや水が燃料コシ器に沈殿したときは、燃料コシ器を外してゴミや水を抜き取ってください。

- ① 燃料コックを「閉」位置にしてください。
- ② コシ器のリテーナリングを回して、カップを取り外してください。
- ③ コシ器内の水やゴミを取り除き、フィルタの目づまりなどを掃除してください。



- ④ フィルタ・パッキン・カップ・リテーナリングを、元通りに取り付けてください。

使用工具
・ プライヤ

6. 燃料パイプ・電気・配線の点検のしかた

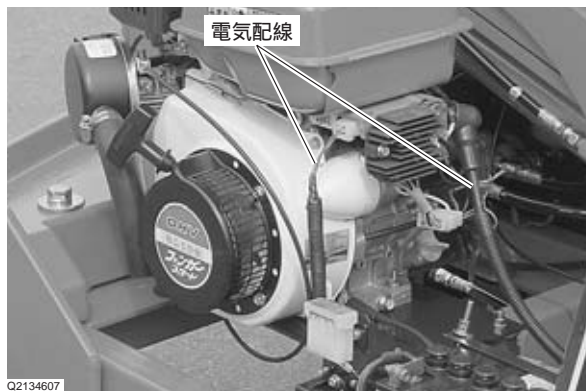
⚠ 危険

- 燃料パイプの老化や傷による燃料もれがあると、火災の原因になります。作業前後に点検し、もれがあれば交換してください。

燃料パイプの傷や接続部の締め付けバンドのゆるみ、燃料もれが無いが確認してください。また、電気配線コードが他の部品に接触して被覆のはがれや傷、または、接続部のゆるみがないか点検します。燃料パイプや電気配線コードが傷んでいる場合は、販売店または、JAで修理してください。

燃料パイプは傷んでいなくとも2年ごとに交換するようにしてください。

電気配線は1年ごとに定期点検を受けてください。



7. 点火プラグの点検のしかた

⚠ 注意

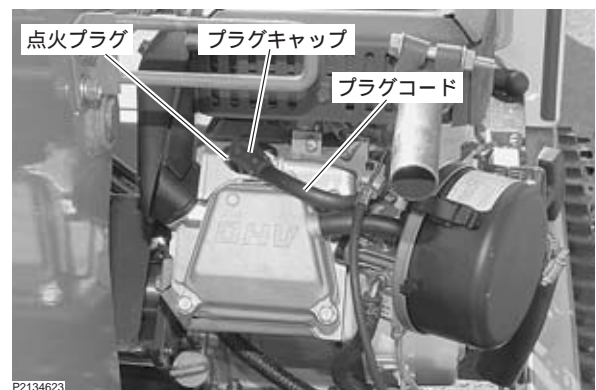
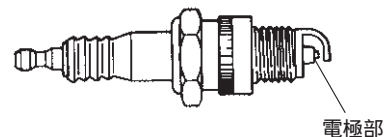
- エンジンが熱いうちに点火プラグを外さないでください。ヤケドのおそれがありますので、エンジンが冷えてから行ってください。

- ① 定期的に点火プラグを取り外し、電極部の焼け具合、損耗程度を点検し、ワイヤブラシで清掃してください。
- ② 電極部が損耗または、破損したものは新品と交換してください。そのまま使用するとエンジンの不調、燃料のムダ使い、排ガス不良となります。

標準点火プラグ

NGK製 (BP5ES)

点火プラグ



プラグコード・プラグキャップは、点火プラグに確実に差し込んでください。

使用工具

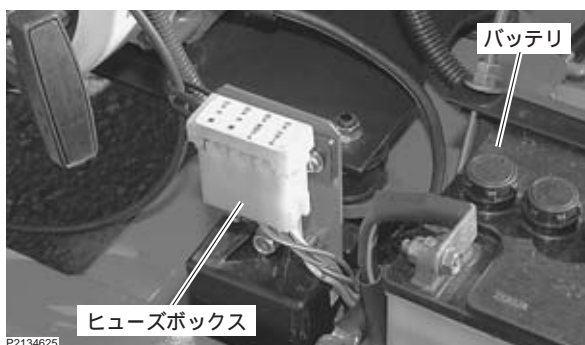
- ボックススパナ21(付属品)
- ボックススパナハンドル(付属品)

8. ヒューズの点検・交換のしかた

ヒューズとヒューズプルリンクは、配線回路（通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流を遮断します。

①左側ボンネットを開けます。

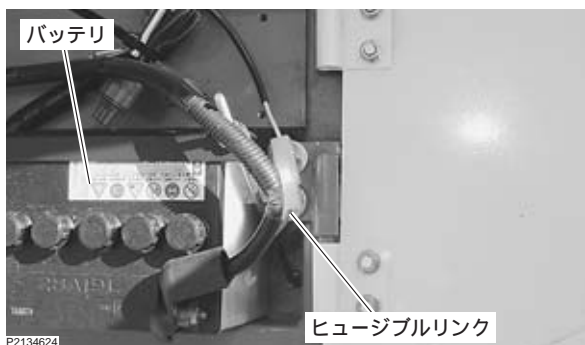
②バッテリー横のヒューズボックスに、20Aと5Aのヒューズがありますので、ヒューズ切れの場合は、同容量のヒューズと交換してください。



ヒューズプルリンク

部品コードNo. : 1N3600-16180

ヒューズプルリンクは、バッテリー⊕端子に接続しています。ヒューズプルリンクは、テスターを使用して断線を確認してください。（指でつまんで軽く引っ張り、被覆が伸びるときは切れています）



取扱いの注意

- ヒューズを交換するときは、バッテリーの⊖側コードを外してから、必ず規定容量のものと交換してください。規定容量以外のヒューズを使用すると故障の原因になります。

ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買い上げいただいた販売店または、JAで点検を受けてください。

9. バッテリーの整備のしかた

⚠危険

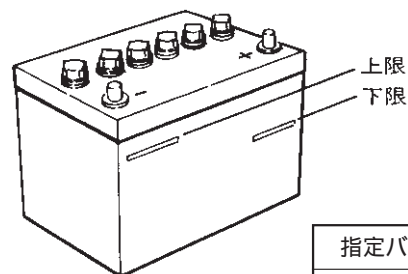
- バッテリーの点検・充電時は火気厳禁です。守らないと引火爆発し、ヤケドを負うおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸ですので身体や服に付くと、服が破れたり、ヤケドを負うことがあります。もし身体や服に付いたときは、すぐに水洗いしてください。
- バッテリーからコードを外すときは、必ず⊖側から外し、取り付けるときは、必ず⊕側から取り付けてください。工具などが接触したときにショートして、ヤケドや火災事故をまねくおそれがあります。
- バッテリー⊕ターミナルのゴムブーツは必ず取り付けおいてください。ショートするとヤケドや火災事故をまねくおそれがあります。
- バッテリーの点検中は、ガスが発生しますので、風通しの良い場所で行ってください。

バッテリー液の点検・補給のしかた

各槽のバッテリー液が、上限と下限のラインの間にあることを確認してください。不足しているときは、蒸留水を補給してください。

参考

- 蒸留水はガソリンスタンドで販売しています。



2035593

取扱いの注意

- バッテリー液は、常に規定量を保ってください。
- バッテリー端子がゆるんでいる場合は、確実に締め付けてください。
- バッテリー液をバッテリーケース液面レベルの上限を越えるほど入れますと、使用中に液漏れし本機を腐食させることがありますので、補給するときは液面レベル上限を越えないよう注意してください。

補給電のしかた

充電は、バッテリーの⊕を充電器の⊕側に、バッテリーの⊖を充電器の⊖側に行いますが、充電器の取扱説明書を十分お読みになってから行ってください。なお、急速充電はできるだけ避けて、普通充電を行ってください。

格納のしかた

格納時は、本機を水平にし、バッテリー液がこぼれないようにしてください。

長期格納時はバッテリーの⊖側のコードを取り外すか、バッテリーを本機から取外し、日光の当たらない、乾燥した場所に保管してください。

取扱いの注意

- 寒冷地などの気温の低い地域、またエンジンの始動がしにくくなったら、補充電を行います。また、2週間以上運転しないと、バッテリーが放電して始動ができない場合があります。このときにも補充電をしてください。
- 本機を長時間使用しないときは、最低1か月に1回は補充電を行ってください。バッテリーが長持ちします。
- 取り付けのとき、ターミナル接触部は布などで油分などを拭き取ってください。
- バッテリーのターミナル部にはグリスを塗布しておいてください。
- バッテリーを交換するときは、必ず規定のバッテリー（28A19L）を使用してください。

10. サクシヨンストレーナの洗淨

購入先で油圧作動油の交換と同時に、サクシヨンストレーナの洗淨を依頼してください。

11. フィルタエレメント (戻しフィルタ)の交換

フィルタエレメントは、カートリッジタイプになっています。200時間ごとに購入先で、交換を依頼してください。

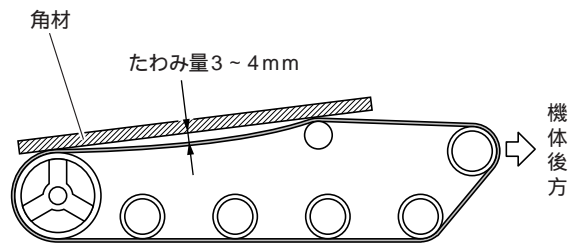
12. クローラの張り調整のしかた

⚠ 注意

- クローラ張り調整後は、必ずロックナット小を確実に締め付けてください。クローラが外れたりして、思わぬ事故の原因となります。

点検のしかた

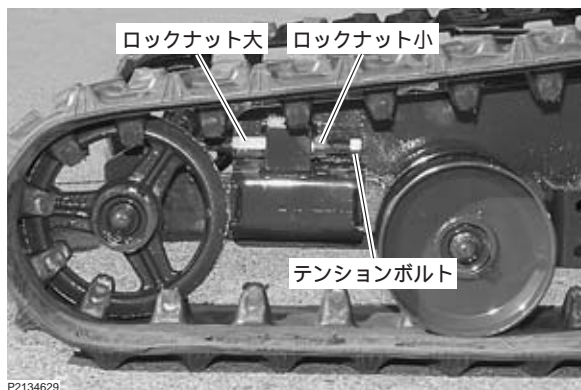
- ①本機を後進させ、クローラを2回転ほど回します。
- ②角材など、まっすぐな物をクローラ上部へ渡して置いてください。
- ③クローラ上部中央のたわみ量が3～4mmであるか確認します。



A2134601

調整のしかた

- ①ロックナット小をゆるめます。



P2134629

- ②ロックナット大をスパナなどで固定し、テンションボルトを締め込みながら調整します。
- ③テンションボルトをスパナなどで固定したまま、ロックナット小を確実に締め付けてください。

使用工具

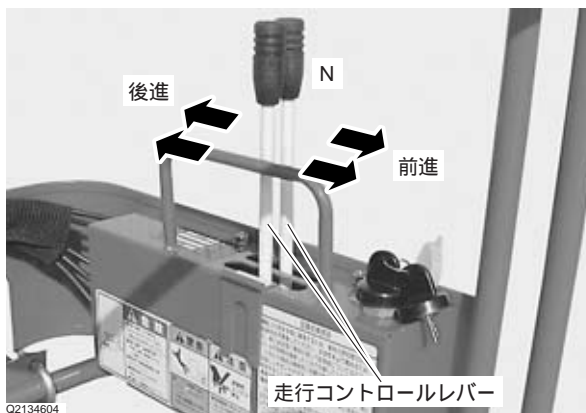
- ・スパナ19mm (付属品)
- ・メガネレンチ19mm (付属品)

13. 走行コントロールレバーの点検のしかた

警告

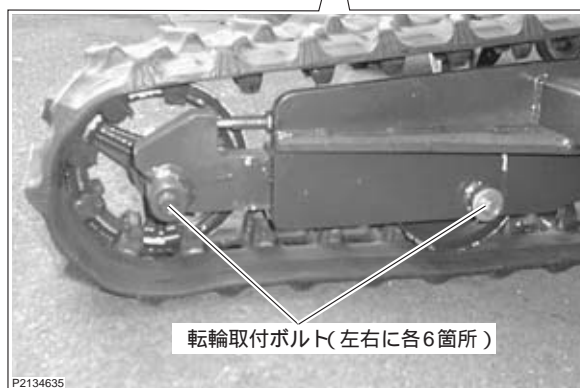
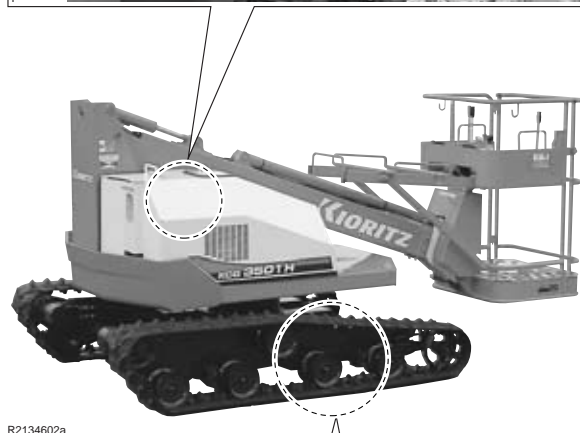
- 走行コントロールレバーを操作したときに確実に作動し、戻り不良がないことを点検してください。守らないと、事故を起こすおそれがあります。

走行コントロールレバーが「前進」「後進」操作ができ、手を離したときに確実に「N」位置に戻るかを点検します。もし不具合があるようでしたらお買い上げいただいた販売店、またはJAで必ず点検、調整を受けてください。



14. 増締めをするところ

エンジン取付ボルト・ナットと転輪取付ボルトは、50時間ごとに点検し、ゆるみがあるときは増締めしてください。

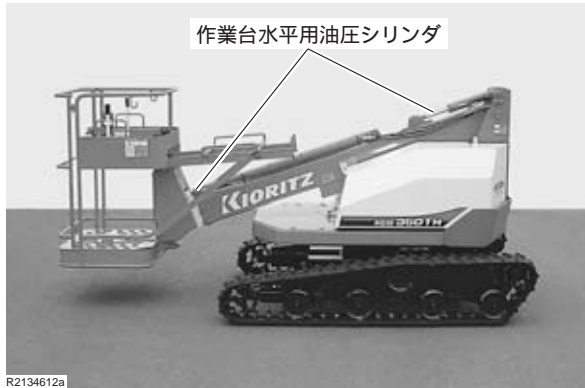


使用工具

- メガネレンチ12mm...エンジン取付ボルト・ナット
- メガネレンチ14mm...転輪取付ボルト

15. 作業台が傾いた場合の 水平調整のしかた

本機は、2本の油圧シリンダを油圧ホースで接続して、作業台の水平を保っています。これにより、長時間の使用や長期保管時に、写真①のように作業台の水平がずれてくる場合があります。このような場合は、作業台の水平調整をしてください。



⚠ 注意

- 調整時は、作業台が矢印方向に傾きますので、作業スペースを確保し、周囲の安全を十分確認して調整をしてください。
- 調整時は、作業台に乗ったり、人を乗せたりしないでください。守らないと傷害事故を起こすおそれがあります。

調整のしかた

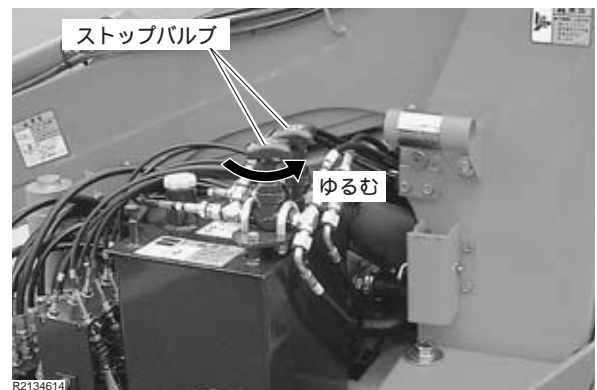
- ① 本機を調整姿勢(ブーム最縮、最下)にしてください。
- ② 左側ボンネットを開けてください。



取扱いの注意

- 調整姿勢以外での調整は、調整不良や故障の原因になります。

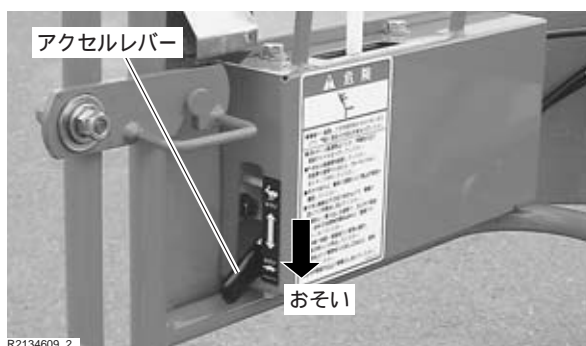
- ③ 作動油タンクの上にあるストップバルブ(2個)を、反時計回りに2回転回してゆるめてください。



⚠ 注意

- 作業台に人を近づけないでください。ストップバルブをゆるめたときに、作業台が倒れて傷害事故を起こすおそれがあります。

- ④エンジンを始動してください。
始動後はアクセルレバーを「おそい」の位置にしてください。



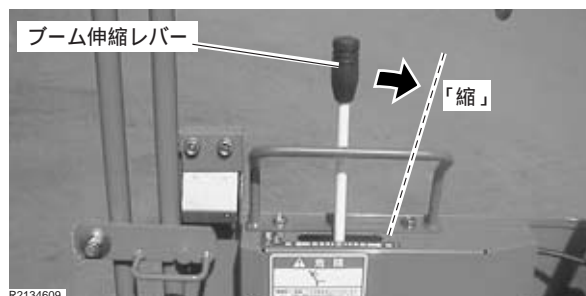
警告

- エンジン始動時は、必ず左右クローラの前後に歯止めがしてあること、およびレバーの位置と周囲の安全を確認してください。守らないと、急に機械が動きだして、傷害事故を起こすおそれがあります。

注意

- アクセルレバーが「はやい」の位置で調整しないでください。ゴンドラが急激に動き危険です。

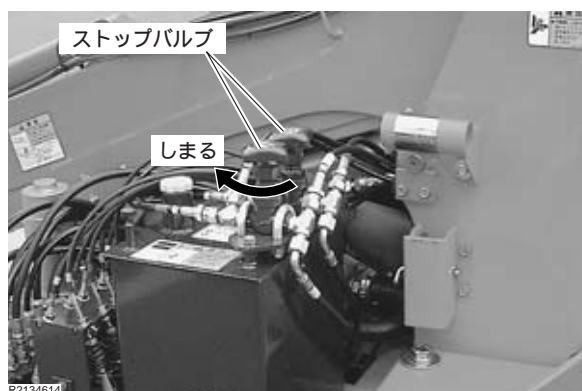
- ⑤外側からブーム伸縮レバーをゆっくり「縮」側へ操作し、最端位置で1秒間保持してください。
その後、ブーム伸縮レバーを「N」位置に戻してください。
この操作により、作業台が動いて本機と水平になります。



警告

- ブーム伸縮レバーを「伸」側へ操作しないでください。ブームが伸びたり、作業台が反対に動き危険です。

- ⑥エンジンを停止させ、作動油タンクの上にあるストップバルブ(2個)を、時計回りに回して確実に閉めてください。



注意

- ストップバルブが確実に閉まっていないと、作業台を上下したときに作業台の水平が保たれなかったり、ブーム伸縮時に作業台が倒れて危険です。

- ⑦ボンネットを閉めてください。

- ⑧本機の異常動作が無いことを確認してご使用ください。

警告

- 機械の調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、左右のクローラの前後に歯止めをしてから診断してください。守らないと、回転物に挟まれて傷害事故の原因になります。

下記の処置をしても改善されないときや、分解が必要な作業は、購入先にご相談してください。

状況	点検箇所	処置	参照ページ
エンジンがかからない	燃料が切れていませんか。	燃料の補給をしてください。	26
	エンジンの始動手順が間違っていないですか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。	27
	燃料に水が入っていませんか。	燃料コシ器に水が溜まっていれば、燃料コシ器を外して水抜きをしてください。	44
	バッテリーが上がっていませんか。	バッテリーを点検し、充電してください。	47
	バッテリー液が減っていませんか。	バッテリー液を補充してください。	46
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	46
	ヒューズブルリンクが切れていませんか。	ヒューズブルリンクを交換してください。	46
	点火プラグが悪くなっていませんか。	点火プラグを外し、乾いた布などで良く乾燥させてください。それでもかからない場合は新しい点火プラグと交換してください。	45
エンジンの力がない	エアクリーナにゴミがつまっていますか。	エレメントを取り外し、圧縮空気を内側から吹き付け、ゴミ・ホコリを取り除いてください。	44
	エンジンオイルが少なくありませんか。	エンジンオイルを補給してください。また、オイルが古くなっている場合は、新しいオイルと入れ換えてください。	42
	エンジンの回転は上がりますか。 (標準姿勢確認：ブーム最縮、最下)	購入先で整備を受けてください。	-
	エンジンの圧縮がないではありませんか。	ピストンリングなどの摩耗も考えられますので、購入先に相談してください。	-
各部に振動が多い	エンジンが振れるものではありませんか。	購入先で整備を受けてください。	-

状 況	点 検 箇 所	処 置	参照ページ
上部体の旋回ができない	旋回ロックをしたままになっていませんか。	旋回ロックを解除してください。	34
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	46
	ペダル下部のスイッチがゆるんでいませんか。	購入先で整備を受けてください。	-
ブーム、作業台が上がらない	ワイヤが外れたり切れたりしていませんか。	購入先で整備を受けてください。	-
	ホース、コネクタから油がもれていませんか。		-
	油圧ポンプが故障していませんか。	購入先で修理してください。	-
	シリンダが破損していませんか。		-
ブーム、作業台が下がらない	ワイヤが外れたり切れたりしていませんか。	購入先で整備を受けてください。	-
	ホース、コネクタから油がもれていませんか。		-
	シリンダが破損していませんか。	購入先で修理してください。	-
ブームの伸縮ができない	ワイヤが外れたり切れたりしていませんか。	購入先で整備を受けてください。	-
	ホース、コネクタから油がもれていませんか。		-
	油圧ポンプが故障していませんか。	購入先で修理してください。	-
	シリンダが破損していませんか。		-
ブームを“最上げ”にしてもエンジン回転が下がらない	ワイヤが外れたり切れたりしていませんか。	アクセルコントロールは安全上重要な部分です。正常に作動していないときは、必ず購入先で修理、調整をしてください。	-
作業台の水平調整をしてもすぐずれる	ストップバルブは確実に閉まっていますか。	もう一度調整をして、ストップバルブを確実に閉めてください。	50
	ホース、コネクタから油がもれていませんか。	購入先で整備を受けてください。	-
	シリンダが破損していませんか。	購入先で修理してください。	-
走行できない	ホース、コネクタから油がもれていませんか。	購入先で整備を受けてください。	-
	油圧走行モータが破損していませんか。	購入先で修理してください。	-
	油圧ポンプが故障していませんか。		-

1. 用語解説

か行

機体の旋回

走行コントロールレバーにより
本機の進行方向を変えること。

グリースアップ

グリースポンプでグリースニ
ップルにグリースを注入する
こと。

さ行

旋回

作業台床上の操作ペダルによ
り、上部体（ブーム・作業台
を含む）を左右に回転させる
こと。

旋回ロック

上部体（ブーム・作業台を含
む）が左右に旋回しないよう
に、旋回ロックピンで本体下
部に固定すること。

は行

標準姿勢

ブーム最縮、最下とした姿勢。

ら行

リコイルスタータ

手動でエンジンを始動させる
装置。

リフト

ブーム・作業台を上昇、下降
すること。

2. 仕様

名 称		農用高所作業機	
型 式		共立 KCG3501H	
車体 (輸送姿勢)	全 長 (mm)	2625	
	全 幅 (クローラ両端) (mm)	1280	
	全 高 (ガードレール上端) (mm)	1280	
	最低地上高 (車体) (mm)	175	
	質 量 (kg)	775	
	接 地 圧 (KPa)	13.7	
型 式		GA180ASECHS	
エ ン ジ ン	出 力 (kW/min ⁻¹)	3.3/1800	
	始 動 方 式	セル始動	
	排 気 量 (ℓ)	0.174	
	種 類	空冷4サイクル1シリンダ、ガソリン、OHV	
	燃 料 タ ン ク 容 量 (ℓ)	3.7	
作 業 台	床 面 最 大 高 (mm)	2700 ~ 3500	
	床 面 最 低 高 (mm)	120 ~ 330	
	最大積載荷量(オベ含む) (kgf)	100	
	ブ ー ム ス イ ン グ 角 (度)	全旋回(360°)	
	ブ ー ム 方 式	伸縮式	
	床面寸法(内長×内幅) (mm)	500×560	
走 行 部	ク ロ ー ラ	接 地 長 (mm)	1340
		履帯中心間距離(トレッド) (mm)	1080
		履 帯 幅 (mm)	200
		リンク数×ピッチ	50×72
		履 帯 張 り 方 式	ネジ式
	走 行 駆 動 方 式	油圧駆動	
	ブ レ ー キ	油圧式(カウンタバランス+ロードホールディング)	
	前 後 進 変 速 段 数	無段変速	
	速 度 (km/h)	0 ~ 1.5 ^{注1)}	

この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

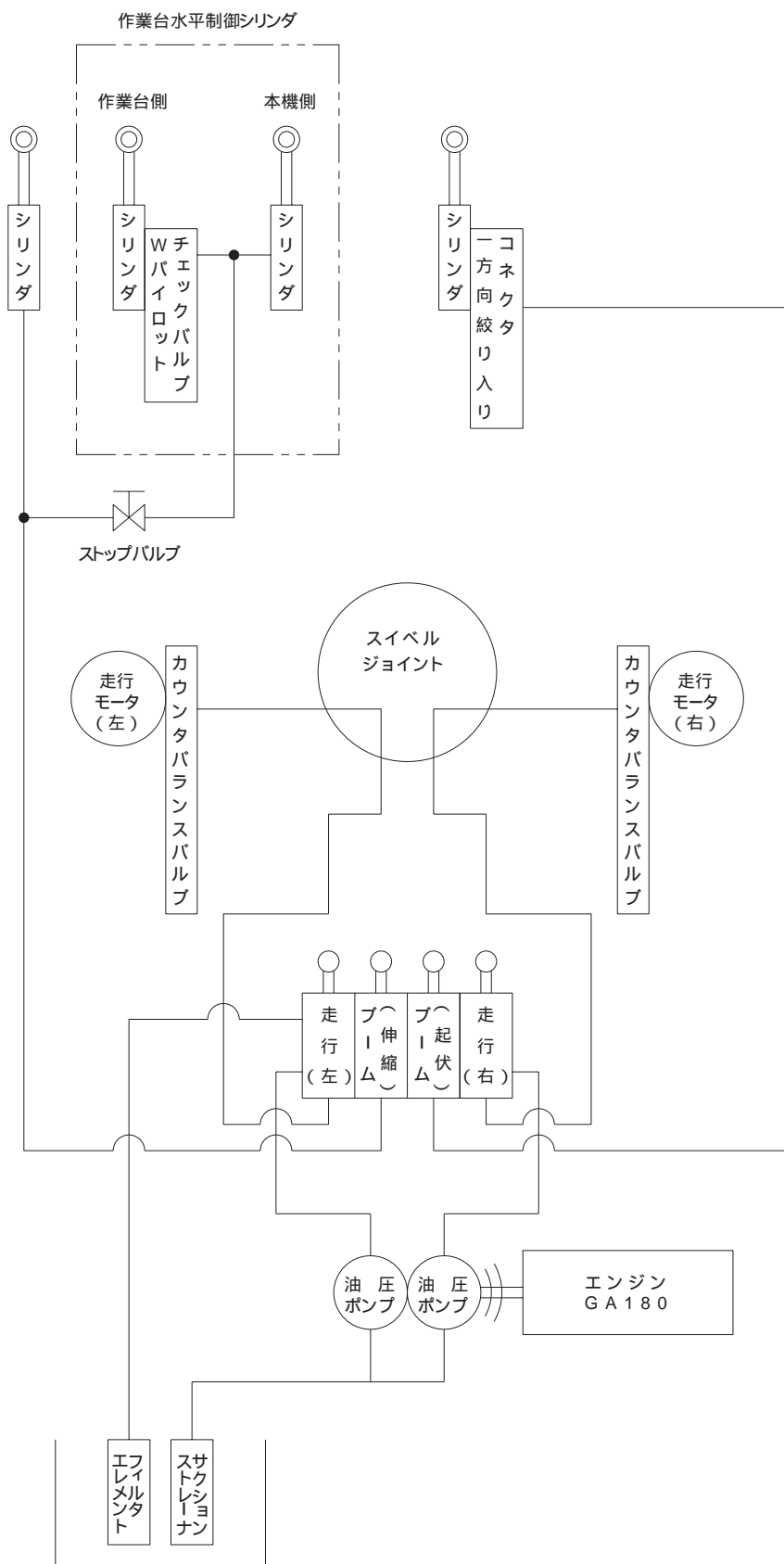
()寸法は収納時の寸法です。

注1)高所作業時は、1.0km/h未満となります。

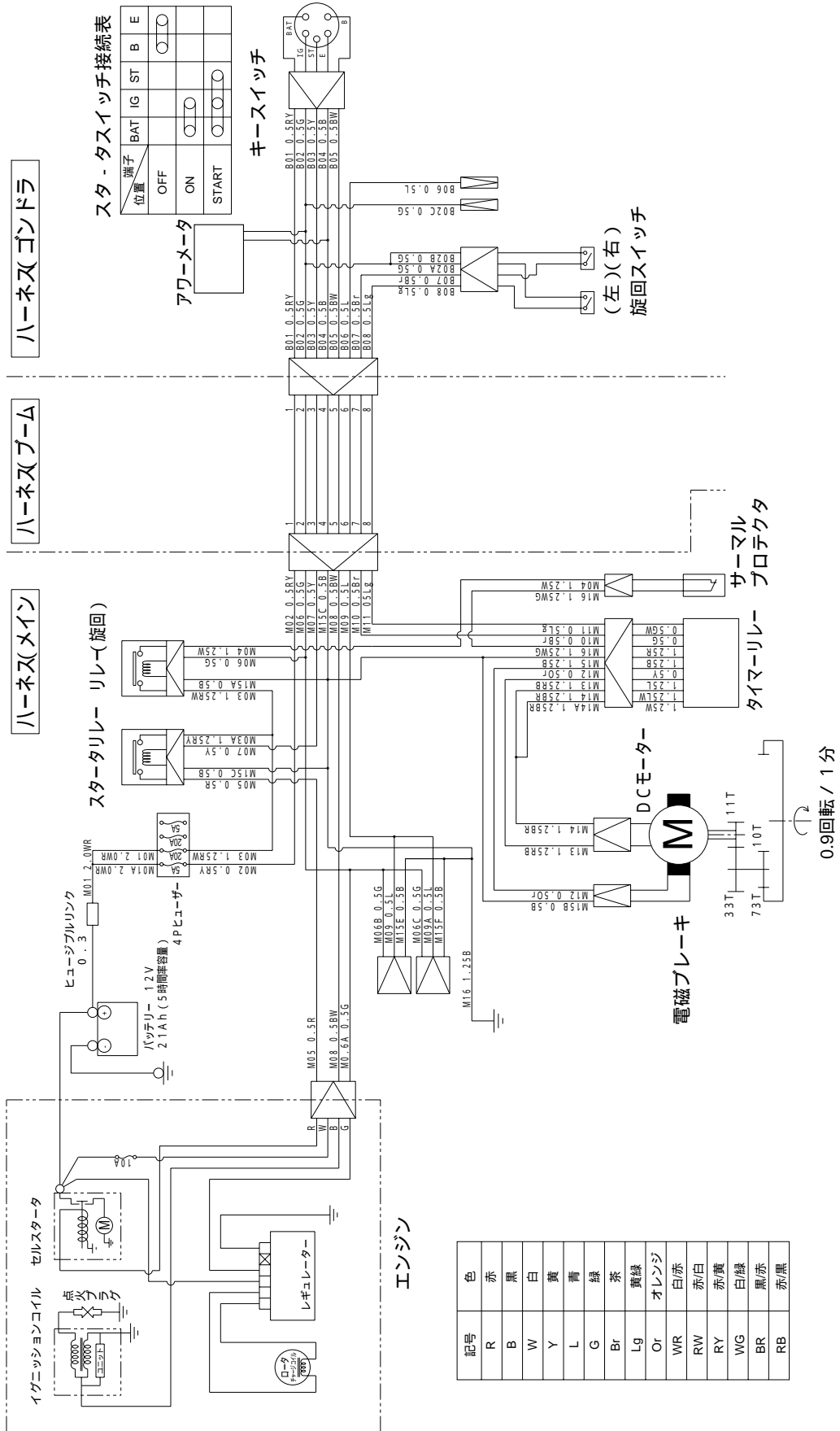
3. 主要消耗部品

No.	品名	コードNo.	備考
①	点火プラグ	160690-78030	フェデラルモーグル社製NY11YC (またはNGK製BP5ES)
②	エアクリーナエレメント	160697-12560	
③	フィルタエレメント(戻しフィルタ)	172156-73710	
④	バッテリー	1A6210-51500	

4. 油圧系統図



5. 電気回路図





株式
会社

共 立

東京都青梅市末広町1-7-2 〒198-8711 ☎0428-32-6181

北海道共立エコー株式会社

札幌市厚別区大谷地東1-2-20 〒004-0041

☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社

仙台市若林区御町東5-1-50 〒984-0002

☎022-288-0511(代)

東部共立エコー株式会社

青梅市末広町1-7-2 〒198-0025

☎0428-32-1091(代)

中部共立エコー株式会社

愛知県清須市西枇杷島町宮前1-39 〒452-0031

☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社

岡山市藤田566-159 〒701-0221

☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社

大野城市白木原5-3-7 〒816-0943

☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社

青梅市末広町1-7-2 〒198-0025

☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はご購入いただいた販売店へご連絡ください。

© 2005 株式会社 共立 著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。